

目次

1. 工作機械統計・産業動向

- ◆米国工作機械受注統計(6月) 1
- ◆米国工作機械受注統計(地域別) 2
- ◆台湾工作機械輸出入統計(2026年5月) 2
- ◆韓国工作機械主要統計(2026年5月) 3

2. 主要国・地域経済動向

- ◆米国：PMI 55.6%(7月) 7
- ◆中国製造業 49.2%(7月) 8
- ◆アメリカCNC横形旋盤市場動向 8
- ◆ドイツ工作機械業界 2025年は総じて低調、
2026年は緩やかな回復が見込まれる 12
- ◆欧州通商政策動向 15
- ◆米国通商政策動向：
輸入業者が主要貿易相手国に対する新たな
「通商法301条」関税を提訴 18

3. 工作機械関連企業動向

- ◆Mikron、2026年上半年期の純売上高
1億8,050万スイスフランを発表 22
- ◆Kennametal、2026年度および第4四半期 23
- ◆HERMLE、
2026年最初の5ヶ月間で事業拡大を達成 26

4. 展示会情報

- ◆AMB 2026、全展示ホールを使用し1,150社の
出展者と共に開催へ 27
- ◆金属切削業界全体に向けた
AMB 2026のプログラム 28
- ◆MTAベトナム(ベトナム製造技術展)レポート 28

5. その他

- ◆ユーザー産業情報 34

6. 日工会外需状況(6月)

45

1. 工作機械統計・産業動向

◆米国工作機械受注統計(6月)

AMT(米国製造技術協会)が発表する米国製造技術受注レポートによると、2026年6月の金属加工機械の新規受注額は合計6億7,270万ドルとなった。これは2026年5月比で15.6%増、2025年6月比では56.8%増にあたる。2026年上半年期の製造技術受注額は合計34億4,000万ドルに達し、2025年上半年期と比較して36.0%増加した。

2026年上半年期の金属加工機械受注額は、USMTOが1998年にデータ収集を開始して以来、最高水準を記録した。受注額は過去最高となったものの、受注台数は2025年下半年期と比べて2.6%減少した。これらの受注の一部は、米国の最新のGDP(国内総生産)統計にも反映されている。同統計では、企業による大規模な機械設備投資が2四半期連続で経済を牽引したことが示された。その成長の大部分はAI関連投資によるものだが、製造技術への投資も間違いなく成長を加速させる要因となっている。

2026年上半年期は、米国とイランの紛争勃発、インフレの進行、貿易摩擦による供給網の課題、前任者ほど「フォワードガイダンス(将来の金融政策指針の提示)」を重視しない新連邦準備制度理事会(FRB)議長の就任、そして関税をめぐる不確実性の再燃など、設備投資にとって数々の逆風に見舞われた。こうした困難にもかかわらず、製造業経済は底堅さを維持しており、鉱工業生産指数は改善を続け、設備稼働率も高水準で安定的に推移している。

(USMTOレポート 2026年8月10日付)

米国工作機械受注統計

(金額単位：千ドル)

年 月	切削型受注		成型型受注	
	台 数	金 額	台 数	金 額
2025年 6月	1,595	423,959	16	D
7月	1,576	387,377	8	D
8月	1,841	533,129	18	4,512
9月	1,795	482,386	28	12,428
10月	2,008	550,327	18	4,961
11月	1,640	429,606	20	3,729
12月	2,572	807,498	20	7,938
2026年 1月	1,457	426,638	18	11,280
2月	1,680	478,072	21	5,833
3月	2,125	656,779	23	8,873
4月	1,853	585,134	20	9,134
5月	1,899	573,141	17	8,810
6月	2,106	663,621	24	9,034
平均	1,857	538,282	19	7,867

◆米国工作機械受注統計(地域別)

(金額単位：百万ドル)

地域別	2026年6月 (P)	2026年5月 (R)	前月比 (%)	前年同月	前年同月比 (%)	2026年累計(P)	2025年累計 (R)	前年同期比 (%)
全米	672.7	582.0	15.6	429.0	56.8	3,436.4	2,526.0	36.0
北東部	112.6	113.7	-1.0	55.8	101.7	556.2	381.4	45.8
南東部	107.3	85.1	26.1	48.4	121.5	452.5	319.6	41.6
北中東部	122.4	99.4	23.1	99.4	23.1	637.2	595.9	6.9
北中西部	100.1	96.7	3.6	78.5	27.6	554.0	426.7	29.8
南中部	79.6	66.5	19.7	36.5	118.2	352.4	261.2	34.9
西部	150.7	120.5	25.0	110.3	36.6	884.1	541.3	63.3

P：暫定値 R：改定値
データは成型形含む

◆台湾工作機械輸出入統計(2026年5月)

台湾工作機械輸出入統計(2026年1～5月)

(単位：千USドル)

機 種 名	輸 出			輸 入		
	2025.1-5	2026.1-5	前年比(%)	2025.1-5	2026.1-5	前年比(%)
放電加工機・レーザ加工機	70,384	86,496	22.9	102,750	115,865	12.8
マシニングセンタ	244,761	223,732	-8.6	28,240	38,823	37.5
旋盤	172,676	162,200	-6.1	22,622	19,724	-12.8
ボール盤・フライス盤・中ぐり盤	57,294	56,461	-1.5	3,265	4,445	36.1
研削盤	86,565	88,547	2.3	15,056	23,822	58.2
歯切り盤・歯車機械	37,127	39,183	5.5	14,607	6,151	-57.9
切 削 型 合 計	668,807	656,619	-1.8	186,540	208,830	11.9

出所：TAMI

台湾工作機械国別輸出入統計(2026年1-5月)

(金額単位：千USドル)

輸 出						輸 入					
順位	国 別	2025.1-5	2026.1-5	割合(%)	前年比(%)	順位	国 別	2025.1-5	2026.1-5	割合(%)	前年比(%)
1	中 国	222,091	222,391	27.7	0.1	1	日 本	105,917	115,319	45.9	8.9
2	米 国	135,513	125,040	15.6	-7.7	2	中 国	42,656	65,015	25.9	52.4
3	イ ン ド	57,775	58,800	7.3	1.8	3	韓 国	9,410	14,717	5.9	56.4
4	ベ ト ナ ム	37,901	55,949	7.0	47.6	4	ド イ ツ	26,831	14,230	5.7	-47.0
5	タ イ	40,867	42,564	5.3	4.2	5	ス イ ス	11,183	11,183	4.5	0.0
6	ト ル コ	63,116	33,049	4.1	-47.6	6	タ イ	5,520	6,700	2.7	21.4
7	マレーシア	15,310	23,298	2.9	52.2	7	シンガポール	685	6,343	2.5	826.0
8	ド イ ツ	12,691	19,780	2.5	55.9	8	米 国	4,950	3,365	1.3	-32.0
9	オ ラ ン ダ	18,019	18,149	2.3	0.7	9	イスラエル	5,048	3,124	1.2	-38.1
10	日 本	20,823	16,532	2.1	-20.6	10	台 湾	2,396	2,592	1.0	8.2
11	韓 国	13,043	15,401	1.9	18.1		そ の 他	11,057	8,644	3.4	-21.8
12	イ タ リ ア	13,739	13,981	1.7	1.8						
13	メ キ シ コ	10,221	13,717	1.7	34.2						
14	インドネシア	11,541	11,657	1.5	1.0						
15	英 国	14,842	11,472	1.4	-22.7						
16	オーストラリア	10,316	10,879	1.4	5.5						
17	ベルギー	8,153	9,999	1.2	22.6						
18	カ ナ ダ	8,066	8,512	1.1	5.5						
19	ブラジル	15,489	8,402	1.0	-45.8						
20	フ ラ ン ス	7,109	7,846	1.0	10.4						
21	ス ペ イ ン	5,925	7,482	0.9	26.3						
22	イスラエル	2,567	6,073	0.8	136.6						
23	南アフリカ	5,775	5,405	0.7	-6.4						
24	ポーランド	8,485	4,796	0.6	-43.5						
25	シンガポール	4,350	3,893	0.5	-10.5						
26	ギリシャ	2,239	3,077	0.4	37.4						
27	ポルトガル	1,650	2,904	0.4	76.0						
28	アラブ首長国	2,882	2,433	0.3	-15.6						
29	フィリピン	2,202	2,290	0.3	4.0						
30	チェコ	2,876	2,277	0.3	-20.8						
	そ の 他	41,238	33,485	4.2	-18.8						
	合 計	816,814	801,533	100.0	-1.9		合 計	225,653	251,232	100.0	11.3

出所：海関進出口統計月報

◆韓国工作機械主要統計(2026年5月)

○業種別受注(2026.5) 韓国工作機械受注(2026年5月) (単位：百万ウォン)

需要業種	2026.4	2026.5	前月比(%)	2025.1-5	2026.1-5	前年同期比(%)
鉄鋼・非鉄金属	1,619	4,820	197.7	14,520	9,756	-32.8
金属製品	137	470	243.1	1,312	1,746	33.1
一般機械	33,921	26,972	-20.5	145,832	127,984	-12.2
電気機械	10,086	14,922	47.9	48,066	58,042	20.8
自動車	39,882	27,457	-31.2	191,758	167,790	-12.5
造船・輸送用機械	5,112	4,674	-8.6	30,970	25,151	-18.8
精密機械	6,456	2,615	-59.5	31,481	16,773	-46.7
その他製造業	7,131	7,403	3.8	24,458	29,729	21.6
官公需・学校	318	0	-	2,333	394	-83.1
商社・代理店	9,064	25,440	180.7	30,803	71,755	132.9
その他	0	0	-	0	0	-
内 需 合 計	113,726	114,773	0.9	521,533	509,120	-2.4
外 需	202,783	176,767	-12.8	804,785	974,836	21.1
総 合 計	316,509	291,540	-7.9	1,326,318	1,483,956	11.9

出所：韓国工作機械産業協会

○機種別受注(2026.5)

(単位：百万ウォン)

機 種	2026.4	2026.5	前月比(%)	2025.1-5	2026.1-5	前年同期比(%)
N C 小 合 計	308,376	285,973	-7.3	1,289,503	1,461,123	13.3
NC旋盤	163,102	137,610	-15.6	624,650	718,641	15.0
マシニングセンタ	112,996	116,428	3.0	476,554	554,741	16.4
NCフライス盤	0	523	-	2,424	763	-68.5
NC専用機	16,859	8,628	-48.8	106,561	103,414	-3.0
NC中ぐり盤	9,538	13,759	44.3	37,574	49,040	30.5
NCその他の工作機械	4,251	6,583	54.9	29,024	25,797	-11.1
非 N C 小 合 計	7,064	2,692	-61.9	26,345	14,668	-44.3
旋盤	4,080	824	-79.8	10,104	6,428	-36.4
フライス盤	2,406	947	-60.6	8,702	4,529	-48.0
ボール盤	0	0	-	205	38	-81.5
研削盤	443	734	65.7	7,334	3,157	-57.0
専用機	135	112	-17.0	0	441	-
その他の工作機械	0	0	-	0	0	-
金 属 切 削 型	315,440	288,665	-8.5	1,315,848	1,475,791	12.2
金 属 成 形 型	1,069	2,875	168.9	10,470	8,165	-22.0
総 合 計	316,509	291,540	-7.9	1,326,318	1,483,956	11.9

出所：韓国工作機械産業協会

韓国工作機械生産&出荷統計(2026年5月)

○生産(2026年5月)

(単位：百万ウォン)

機 種 別	2026.4	2026.5	前月比(%)	2025.1-5	2026.1-5	前年同期比(%)
N C 小 合 計	199,732	207,655	4.0	828,205	874,239	5.6
NC旋盤	92,337	92,994	0.7	398,937	389,784	-2.3
マシニングセンタ	72,476	79,935	10.3	289,543	310,051	7.1
NCフライス盤	97	387	299.0	708	684	-3.4
NC専用機	21,121	21,889	3.6	87,795	113,177	28.9
NC中ぐり盤	2,834	5,006	76.6	16,076	17,130	6.6
NCその他	9,381	5,902	-37.1	23,023	35,734	55.2
非 N C 小 合 計	1,289	1,319	2.3	11,932	6,489	-45.6
旋盤	0	0	-	1,243	0	-
フライス盤	937	612	-34.7	4,798	3,671	-23.5
ボール盤	0	0	-	1,628	0	-
研削盤	205	632	208.3	3,573	2,205	-38.3
専用機	147	0	-	690	538	-22.0
その他	0	0	-	0	0	-
金 属 切 削 型 合 計	201,021	208,974	4.0	840,137	880,728	4.8
金 属 成 形 型 合 計	14,279	14,286	0.0	79,473	76,273	-4.0
総 合 計	218,300	223,260	3.7	919,610	957,001	4.1

出所：韓国工作機械産業協会

○出荷(2026.5)

(単位：百万ウォン)

機 種 別	2026.4	2026.5	前月比(%)	2025.1-5	2026.1-5	前年同期比(%)
N C 小 合 計	248,370	250,419	0.8	1,072,057	1,174,292	9.5
NC旋盤	129,415	124,778	-3.6	533,508	578,280	8.4
マシニングセンタ	84,512	87,443	3.5	372,356	427,040	14.7
NCフライス盤	123	387	214.6	708	710	0.3
NC専用機	21,121	21,889	3.6	106,959	113,177	5.8
NC中ぐり盤	4,630	9,234	99.4	23,421	22,951	-2.0
NCその他	7,083	5,146	-27.3	22,982	24,455	6.4
非 N C 小 合 計	2,533	2,825	11.5	20,490	11,628	-43.3
旋盤	1,066	1,439	35.0	9,110	4,611	-49.4
フライス盤	978	644	-34.2	5,009	3,828	-23.6
ボール盤	0	0	-	1,697	0	-
研削盤	342	667	95.0	3,984	2,576	-35.3
専用機	147	0	-	690	538	-22.0
その他	0	0	-	0	0	-
金 属 切 削 型 合 計	250,903	253,244	0.9	1,092,547	1,185,920	8.5
金 属 成 形 型 合 計	889	915	2.9	7,206	4,568	-36.6
総 合 計	251,792	254,159	0.9	1,099,753	1,190,488	8.3

出所：韓国工作機械産業協会

○機種別輸出(2026.5) 韓国工作機械輸出統計(2026年5月) (単位：千USドル)

機種別	2026.4	2026.5	前月比(%)	2025.1-5	2026.1-5	前年同期比(%)
N C 小 合 計	148,623	121,375	-18.3	681,931	679,909	-0.3
NC旋盤	65,573	56,951	-13.1	329,939	312,268	-5.4
マシニングセンタ	45,886	39,366	-14.2	198,958	213,050	7.1
NCフライス盤	796	518	-34.9	7,647	4,352	-43.1
NC専用機	0	0	-	11,791	0	-
NC中ぐり盤	4,168	2,993	-28.2	14,384	11,715	-18.6
レーザ加工機	24,877	16,276	-34.6	92,061	104,950	14.0
NCその他	3,578	2,310	-35.4	14,887	15,555	4.5
非 N C 小 合 計	7,332	6,615	-9.8	43,443	33,263	-23.4
旋盤	618	507	-17.9	3,636	2,676	-26.4
フライス盤	854	635	-25.7	4,785	3,790	-20.8
ボール盤	386	354	-8.4	2,213	1,390	-37.2
研削盤	1,156	582	-49.6	3,707	5,374	45.0
専用機	0	0	-3.2	331	112	-66.2
その他	3,113	3,757	20.7	18,523	14,565	-21.4
金 属 切 削 型 合 計	155,955	127,990	-17.9	725,374	713,172	-1.7
金 属 成 形 型 合 計	36,778	50,510	37.3	223,651	191,594	-14.3
総 合 計	192,732	178,500	-7.4	949,025	904,766	-4.7

出所：韓国通関局

○仕向け国別輸出(2026.1-5) (単位：千USドル)

機種別	アジア	中国	インド	アメリカ	欧州	ドイツ	トルコ
NC小合計	262,988	84,189	73,908	166,586	198,846	77,666	58,936
NC旋盤	60,282	21,160	23,299	95,242	135,102	54,924	42,721
マシニングセンタ	84,027	24,668	40,373	49,115	57,453	20,421	15,099
NCフライス盤	2,652	305	865	927	511	52	0
NC専用機	0	0	0	0	0	0	0
NC中ぐり盤	6,048	4,075	1,972	2,334	0	0	0
レーザ加工機	91,517	24,746	3,804	9,352	2,206	98	104
NCその他	5,210	905	1,580	7,600	1,950	1,392	533
非NC小合計	24,520	7,663	8,152	4,961	2,099	976	236
旋盤	2,245	172	1,027	212	69	69	0
フライス盤	2,645	545	822	897	189	77	0
ボール盤	1,274	149	91	85	26	0	0
研削盤	4,637	1,174	2,340	574	92	81	0
専用機	1	0	0	0	111	111	0
その他	10,145	5,094	2,728	2,340	922	231	235
金 属 切 削 型 合 計	287,508	91,852	82,060	171,547	200,945	78,642	59,172
金 属 成 形 型 合 計	109,446	6,492	72,212	52,421	17,548	5,039	3,903
総 合 計	396,954	98,344	154,272	223,967	218,493	83,681	63,076

出所：韓国通関局

○機種別輸入(2026.5) 韓国工作機械輸入統計(2026年5月) (単位：千USドル)

機 種 別	2026.4	2026.5	前月比(%)	2025.1-5	2026.1-5	前年同期比(%)
N C 小 合 計	47,617	40,709	-14.5	255,819	243,176	-4.9
NC旋盤	3,413	2,520	-26.2	25,529	17,912	-29.8
マシニングセンタ	13,177	15,296	16.1	55,854	62,730	12.3
NCフライス盤	1,290	298	-76.9	1,428	24,783	1,635.5
NC専用機	0	8	-	2,888	2,333	-19.2
NC中ぐり盤	204	187	-8.5	6,275	4,442	-29.2
レーザ加工機	18,010	15,781	-12.4	94,200	81,600	-13.4
NCその他	176	555	216.2	2,737	6,041	120.7
非 N C 小 合 計	6,284	6,692	6.5	35,172	29,208	-17.0
旋盤	621	552	-11.0	2,007	2,223	10.8
フライス盤	80	222	177.9	1,520	1,839	21.0
ボール盤	232	337	45.6	1,347	1,366	1.4
研削盤	954	1,787	87.3	8,962	4,215	-53.0
専用機	0	8	-	252	8	-96.9
その他	2,354	1,098	-53.4	10,252	10,593	3.3
金 属 切 削 型 合 計	53,901	47,401	-12.1	290,991	272,384	-6.4
金 属 成 形 型 合 計	8,025	7,405	-7.7	65,517	51,958	-20.7
総 合 計	61,926	54,807	-11.5	356,508	324,342	-9.0

出所：韓国通関局

○輸入国別(2026.1-5)

(単位：千USドル)

機種別	アジア	日本	台湾	米国	欧州	ドイツ	イタリア
N C 小 合 計	177,755	78,158	10,901	1,623	60,820	21,933	2,562
NC旋盤	16,476	6,813	906	46	1,390	0	0
マシニングセンタ	52,223	39,077	7,194	532	9,971	7,935	350
NCフライス盤	2,068	444	293	10	22,705	0	0
NC専用機	925	707	0	8	1,400	1,400	0
NC中ぐり盤	2,334	1,324	0	0	2,108	7	2,101
レーザ加工機	73,737	20,206	122	237	7,506	5,081	95
NCその他	2,754	1,448	0	676	2,606	2,427	16
非 N C 小 合 計	19,835	7,128	1,536	1,669	7,670	5,222	252
旋盤	2,171	734	252	2	50	43	0
フライス盤	429	214	0	1,061	350	256	6
ボール盤	1,277	279	32	6	54	27	0
研削盤	3,999	2,004	420	25	187	3	1
専用機	1	0	0	7	0	0	0
その他	6,369	2,226	29	40	4,182	3,661	36
金 属 切 削 型	197,590	85,286	12,437	3,292	68,490	27,155	2,814
金 属 成 形 型	30,360	9,697	1,530	1,034	20,387	2,483	9,397
総 合 計	227,950	94,984	13,967	4,325	88,876	29,637	12,211

出所：韓国通関局

2. 主要国・地域経済動向

◆米国：PMI 55.6%(7月)

最新の製造業PMI®（購買担当者景気指数）レポートによると、7月の製造業における経済活動は7カ月連続で拡大した。

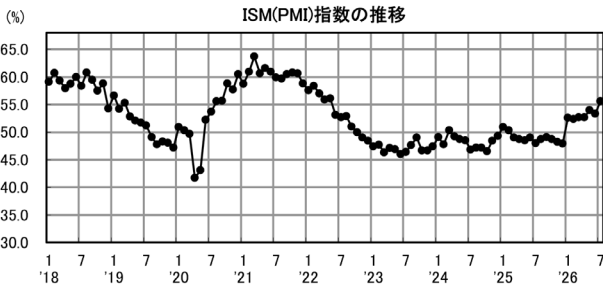
7月の製造業PMI®は55.6%を記録し、6月の数値から2.3ポイント上昇、2022年5月(55.9%)以来の高水準となった。経済全体は21カ月連続で拡大を続けている（製造業PMI®が一定期間47.5%を上回るとは、一般的に経済全体の拡大を示唆する）。新規受注指数は、4カ月連続の縮小を経て7カ月連続で拡大し、6月の56%から0.7ポイント上昇して56.7%を記録した。7月の生産指数(58.5%)は、6月の52.2%を6.3ポイント上回り、2021年11月(60.5%)以来の高水準となった。

7月の米国製造業の活動は拡大領域を維持し、その拡大ペースは4年余りで最も速いものとなった。PMI®を構成する5つのサブ指数のうち、4つが前月比で上昇した。唯一の例外は在庫指数で、0.2ポイントの低下にとどまった。

7月に成長を報告した15の製造業種は、以下の通りである。（順不同）：印刷・関連支援活動、アパレル・

皮革・関連製品、電気機器・家電・電子部品、一次金属、非金属鉱物製品、輸送用機器、その他製造業、繊維製品製造、機械、コンピュータ・電子製品、食料品・飲料・たばこ製品、木材製品、プラスチック・ゴム製品、家具・関連製品、および金属加工製品。

ISMが発表した7月の主要個別指数の前月比変動傾向は以下の通り。



項 目	2026年7月指数(%)	2026年6月指数(%)	備 考
ISM 指数(PMI)	55.6	53.3	前月比2.3ポイント増。PMIが50%を上回ると製造業の拡大を示唆。
新 規 受 注	56.7	56.0	前月比0.7ポイント増。拡大の基準は51.9である。12業種が増加を報告した。
生 産	58.5	52.2	前月比6.3ポイント増。拡大の基準は、52である。12業種が増加を報告。
雇 用	52.8	49.7	前月比3.1ポイント増。6業種が増加を報告した。
入 荷 遅 延	58.9	57.4	前月比1.5ポイント増。長期化の基準は、50以上。18業種中13業種が長期化を報告した。
在 庫	51.2	51.4	前月比0.2ポイント減。拡大の基準44.5ポイントを上回った。8業種が在庫増を報告した。
顧 客 在 庫	40.7	42.3	前月比1.6ポイント減。2業種が増加を報告した。
仕 入 れ 価 格	71.1	73.0	前月比1.9ポイント減。14業種が増加を報告した。
受 注 残	55.0	50.5	前月比4.5ポイント増。11業種が増加を報告した。
輸 出 受 注	53.0	48.5	前月比4.5ポイント増。4業種が増加を報告した。
原 材 料 輸 入	55.7	52.9	前月比2.8ポイント増。9業種が増加を報告した。

※データは季節修正値

(ISM Manufacturing Report on Business 2026年8月1日付)

◆中国製造業 PMI 49.2% (7月)

7月の中国製造業購買担当者景気指数(PMI)は49.2%となり、前月から1.1ポイント低下し、製造業の景況感が悪化したことを示した。

企業規模別に見ると、大企業、中堅企業、中小企業のPMIはそれぞれ49.5%、49.7%、47.4%となり、前月から1.2ポイント、0.8ポイント、0.8ポイント低下し、いずれも基準値を下回った。

5つのサブ指数については、生産指数、新規受注指数、原材料在庫指数、雇用指数、およびサプライヤー配送時間指数のすべてが基準値を下回った。

生産指数は49.9%で、前月から1.5ポイント低下し、製造業における生産活動が鈍化したことを示した。

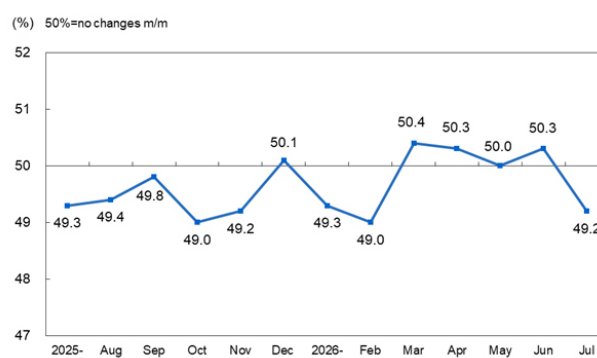
新規受注指数は48.5%で、前月から2.7ポイント低下し、製造業の市場需要が減少したことを示した。

原材料在庫指数は48.3%で、前月から0.1ポイント低下し、製造業における主要原材料の在庫が引き続き減少していることを示した。

雇用指数は49.0%で、前月から0.5ポイント上昇し、製造業の雇用情勢が回復したことを示した。

サプライヤー配送時間指数は49.5%で、前月から0.4ポイント低下し、製造業における原材料サプライヤーの配送時間が前月と比べて延びたことを示した。

Figure 1 Manufacturing PMI (Seasonally Adjusted)



(Bureau of Statistics of China 2026年8月1日付)

◆アメリカ CNC 横形旋盤市場動向

市場調査機関Mordor Intelligenceによると、世界の旋盤機械市場規模は2026年に約123億ドルで、年平均成長率2.86%で拡大し、2031年には約142億ドルに達すると予測されている。製品別では、CNC旋盤が2025年の全市場の61.2%を占め、最も高い比率を記録した。CNC旋盤は、複雑な形状の金属部品を高精度で繰り返し加工できるため、自動車の駆動系、航空機エンジン、半導体装置、医療機器部品の製造に広く活用されている。機械構成別では、横形旋盤(Horizontal Lathe)が2025年の全市場の52.87%を占め、最も大きな比率を記録した。

横形旋盤は長い軸や円筒形の部品を安定して加工できるため、さまざまな製造業で最も一般的に使用されている。一方、立形旋盤(Vertical Lathe)は、工作物を垂直方向に固定して加工する構造で、直径が大きく重い部品を安定して加工できるため、風力、発電設備、航空宇宙、重機産業などで主に活用されている。機能面では、横形CNC旋盤を基盤とし、ミリングとドリリング機能を組み合わせた多軸ターニングセンター(Multi-axis Turning Center)が、予測期間中に年平均5.41%という最も高い成長率を記録すると見込まれている。これは、1台の装置で複数の加工工程を連続して実行できるため、生産効率が向上し、人件費を削減できるからである。

最終的な需要産業別では、自動車産業が2025年の全体市場の約43.8%を占め、最大の需要先として浮上した。自動車エンジンやトランスミッション部品、電気自動車のモーターシャフトや減速機などの精密部品加工の需要が増加する中で、CNC横形旋盤の活用も拡大している。また、医療機器産業は予測期間中に年平均6.67%という最も高い成長率を記録すると見込まれ、インプラントや手術器具などの超精密金属部品生産向けCNC旋盤の需要も継続的に増加すると予想されている。

電気自動車モーターシャフト：電気自動車の駆動モーターの回転力を減速機や車輪に伝える軸

最近、米国のCNC旋盤市場では、複合加工と自動化機能を組み合わせた装置が主要なトレンドとして定着している。従来は旋盤で円筒形加工を終えた後、フライス盤やドリルマシンでワークを移動させて追加加工を行う必要があったが、最近では1つのCNC旋盤で旋削、フライス、ドリル、タッピングなどの複数の工程を連続して行える複合加工機器が急速に普及している。これにより、工作物の再固定工程で生じる誤差を減らすことができ、作業時間を短縮し、生産性を向上させるという利点がある。

旋削(Turning)：回転する工作物を切削工具で削り、円筒形や円錐形などの形状を作る加工工程

ミリング(Milling)：回転する切削工具で平面、溝、曲面などを削り、希望の形状を作る加工工程

ドリリング(Drilling)：ドリルを使って金属に穴を開ける加工工程

タッピング(Tapping)：開けた穴の内部にねじ山を作り、ボルトやねじを締め付けられるようにする加工工程

代表的な例として、工作機械メーカーのマザック(Mazak)の複合加工CNC旋盤であるインテグレックスi-350ネオ(INTEGREX i-350 NEO)とクイックターン350(QUICK TURN 350)がある。インテグレックスi-350ネオは、1台の装置で旋削やフライス加工など多様な加工を連続的に行える複合加工装置で、工程統合により高い精度と生産性を実現するよう設計されている。また、AIベースのマザトロール・スムーズAI(MAZATROL SmoothAI)制御システムと熱変位補正機能を採用し、長時間の加工でも高い加工精度を維持できる。

クイックターン350は、大型工作物の高速・高剛性旋削加工に重点を置いたCNC旋盤で、ミリング機能やY軸機能、第2主軸などをオプション仕様として構成でき、さまざまな生産環境に対応できる。本製品は、今年9月に米国シカゴで開催される国際工作機械博覧会(IMTS 2026)において、協働ロボットをベースとした自動化システムと連携し、工作物の投入と排出を自動化する生産セル形式で展示される予定である。

輸入動向

HS CODE 8458.11の基準によると、2025年の米国CNC横形旋盤の輸入額は前年比2.3%増の約7億9,110万ドルとなった。主な輸入国は日本、韓国、タイの順で、その中で韓国は第2位の輸入国であり、輸入額は前年比15.6%増の約2億4,970万ドルとなった。一方、日本からの輸入額は約3億8,150万ドルで、全輸入の48.2%を占め、首位を占めた。

最近3年間のアメリカのCNC横形旋盤(HS CODE 8458.11)の輸入動向
(単位：US\$百万、%)

順位	輸入国名	2023年	2024年	2025年	占有率('25年)	前年対比増減率('25年)
1	日本	485.9	382.4	381.5	48.2	-0.2
2	韓国	213.4	215.8	249.7	31.5	15.6
3	タイ	62.5	30.1	39.9	5.0	32.6
4	ドイツ	42.6	37.7	34.6	34.3	-8.2
5	台湾	54.4	39.9	31.0	3.9	-22.3
6	オーストリア	3.6	15.3	10.9	1.3	-28.9
7	イタリア	9.6	9.3	9.1	1.1	-2.1
8	スペイン	15.1	9.2	7.1	0.9	-22.4
9	スイス	7.8	13.1	6.2	0.7	-52.3
10	シンガポール	3.4	2.4	4.8	0.6	95.9
全体		915.1	772.9	791.1	100	2.3

資料: Global Trade Atlas(2026.7.21.)

競争動向と流通構造

米国のCNC横形旋盤市場は、ハース・オートメーション(Haas Automation)、マザック(Mazak)、オークマ(Okuma)、DNソリューションズ(DN Solutions)、現代ウィア(Hyundai WIA)などのグローバル工作機械企業が市場をリードしている。これらの企業は、一般的な2軸横形旋盤からY軸、補助主軸、回転工具を組み合わせた複合加工ターニングセンターまで、幅広い製品群を供給している。最近では、装置の出力と精度に加えて、ロボットと自動部品供給装置の連携、熱変位制御、遠隔モニタリング、そして米国内のアフターサポート能力が主要な競争要素として機能している。

ハースオートメーションは米国カリフォルニア州に拠点を置く工作機械メーカーで、STシリーズを中心に多様なCNC水平旋盤を供給している。基本型、長軸型、二重主軸型などに製品群を細分化し、中小加工業者から大量生産業者まで対応しており、自動部品ローダーやバーフィーダーなどの自動化装置も提供している。ハースオートメーションの製品は、地域ごとのハースファクトリーアウトレット(Haas Factory Outlet)を通じて販売され、同流通網が機器の相談、設置、教育、部品供給及び保守を担当する。

- 長軸型：長いシャフトなど、長さのある工作物を安定して加工できるようにベッドの長さを拡張したCNC旋盤
- 二重主軸型：二つの主軸を利用して、ワークピースの前後面を一度のセットアップで連続加工できるため、生産性と精度を高めたCNC旋盤

韓国企業の中では、DNソリューションズと現代ウィアが代表的にアメリカ市場にCNC横形旋盤を供給している。DNソリューションズは、2軸横形旋盤、3軸ターニングセンター、複合加工機を販売しており、米国のディーラー・サービスセンターを通じて機器の供給や部品・技術サポートを提供している。2025年にはイリノイ州シャンバーグに約36万3,000平方フィート規模のシカゴ技術センターを開設し、機器のデモンストレーションや技術教育、顧客サポート機能を強化した。現代ウィアは、米国イリノイ州イタスカにある現地法人を拠点に、中小型CNC旋盤、長尺旋盤、二軸・二重ターミナル装置など、さまざまなターニングセンターを供給している。

米国CNC横形旋盤の流通構造は、メーカーの現地法人による直接供給、地域別の工作機械専門代理店を通じた販売、システム統合業者と連携した自動化設備供給方式に分かれる。標準仕様のCNC旋盤は、地域の代理店が顧客の加工物のサイズ、素材、生産量、必要な軸構成を確認した後、機器を提案し、設置や教育、メンテナンスを提供することが多い。ハースオートメーションは地域ごとのハースファクトリーアウトレットを中心に販売網を運営し、オークマとDNソリューションズも地域の流通業者やサービスセンターを通じて見積もり、部品、教育、技術支援を提供している。

一方、自動車、航空宇宙、防衛産業、医療機器のように加工精度と生産量に対する要求が高いプロジェクトは、製造業者の現地法人、代理店、そして自動化システム統合業者が共同で参加する形が一般的である。この場合、CNC旋盤の単独販売よりも、ロボット、自動部品ローダー、ワーク固定装置、測定システム、加工プログラムを1つの生産セルに統合する。顧客の実際の部品を使用した試験加工、工程設計、生産時間の検証、作業教育、長期保守までが供給範囲に含まれる可能性がある。そのため、米国市場への進出時には、装置の価格や性能に加えて、現地代理店の確保、迅速な部品供給、応用技術支援、そして自動化企業との協力体制が重要な競争要素となる。

関税及び認証

CNC横形旋盤(HS CODE 8458.11)は、日米自由貿易協定(FTA)に基づく関税免除品目である。ただし、最近の米国はサプライチェーンの再編と通商政策の強化に伴い、国ごとに追加関税や貿易規制を導入しており、実際に輸入する際には基本関税率に加えて追加関税の適用可否も併せて検討しなければならない。

認証に関しては、HS Code 8458.11製品に対して米国連邦レベルの単一輸入許可や義務認証が一律に適用されるわけではない。しかし、CNC横形旋盤を米国の産業現場に設置して使用する場合は、米国産業安全衛生局(Occupational Safety and Health Administration、OSHA)の機械防護及び電気安全要件を検討しなければならない。米国産業安全衛生局(COPCA)の規則29 CFR 1910.212は、回転部、加工工程、切削過程で発生する飛散金属チップなどから作業者を保護するため、保護ドア、固定式ガード、インターロックなどの安全装置の設置を求めている。駆動軸や動力伝達装置が外部に露出する場合、29 CFR 1910.219の防護要件も適用される可能性がある。

CNC水平旋盤(HS Code 8458.11)に一括して適用される米国連邦レベルの単一輸入許可または義務認証制度は存在しない。ただし、同装置を米国の産業現場に設置・運用するには、米国産業安全衛生局(Occupational Safety and Health Administration、OSHA)の機械防護に関する規定を検討する必要がある。米国連邦規則集(Code of Federal Regulations、CFR)第29編1910.212条は、すべての産業用機械に適用される一般的な防護基準として、加工部、回転部品、挟み込み部、飛散チップなどから作業者を保護できるよう、適切な安全装置を備えることを規定している。また、軸、ベルト、プーリー、ギア、チェーンなどの動力伝達装置が外部に露出している場合には、第29編1910.219条に基づく防護要件が適用される可能性がある。

また、電気制御盤やモーター駆動装置などの電気部品は、設置環境や管轄機関の要請に応じて、米国産業安全衛生局が認定する国家認定試験機関(Nationally Recognized Testing Laboratory、NRTL)での安全認証が求められることがある。米国産業安全衛生局は、国家認定試験機関制度を通じて、UL Solutions、Intertek、CSA Groupなどの民間試験・認証機関が米国の安全基準に基づき製品を試験・認証できるよう認めている。したがって、機器の電圧、制御盤の構成、モータードライブ及び設置方式に応じて試験規格や認証範囲が変わる可能性があるため、バイヤーや設置地域の管轄機関の要件を事前に確認する必要がある。

示唆点

米国のCNC横形旋盤市場は、自動車、航空宇宙、防衛産業、医療機器、半導体装置などの先端製造業を中心に安定した需要が続いている。特に熟練労働者の不足が続く中、複数工程を1台の装置で処理できる複合加工ターニングセンタや自動化連携型CNC旋盤の導入が急速に増加している。それに伴い、米国市場では装置の加工性能だけでなく、オートメーション機能とデジタル技術を組み合わせた高付加価値CNC旋盤への需要が拡大している。製造業者は、AIベースの熱変位補正、遠隔モニタリング、工程データ管理、自動工具測定などのスマート製造機能を搭載した装置を好む傾向があり、装置供給後に迅速な技術支援や部品供給、工程最適化サービスを提供できる企業を優先的に選ぶ傾向が見られる。それに伴い、現地のサービスネットワークや応用技術支援能力も供給業者選定の重要な要素となっている。

このような市場変化に対応して、自動車、航空宇宙、医療機器、半導体装置などの高付加価値製造業を中心に米国市場への進出機会を模索する必要がある。特に、△ 複合加工が可能なCNCターニングセンタ、△ ロボットや自動部品ローダーと連携できる自動化生産ソリューション、△ AIベースの工程最適化と遠隔モニタリング機能を備えたスマートCNC旋盤、△ 高精度医療機器や半導体部品加工用CNC旋盤の分野で競争力を確保することが重要と見込まれる。また、米国市場では機器の性能だけでなく、迅速な技術サポートや保守体制も重要であるため、現地の代理店やシステムインテグレーターとの協力も重要と考えられる。

資料：Global Trade Atlas、Mordor Intelligence、Grand View Research、マザック(Mazak)、米国産業安全衛生局(OSHA)、KOTRAシカゴ貿易館資料総合

(kotra海外市場ニュース 7月28日付)

https://dream.kotra.or.kr/kotranews/cms/news/actionKotraBoardDetail.do?SITE_NO=3&MENU_ID=190&CONTENTS_NO=2&bbsGbn=254&bbsSn=254&pNttSn=243107

◆イタリア工作機械業界 2025年は総じて低調、2026年は緩やかな回復が見込まれる

イタリア工作機械・ロボット・自動化システム製造業界にとって、2025年は総じて低調な年となり、前年比で概ね横ばいにとどまり、期待外れの結果となった。主な要因は輸出の急激な落ち込みにある。一方、国内市場では需要の回復に支えられ、より良好な実績を記録した。ただし、二桁の伸びを記録したとはいえ、その数値は2021年から2022年に達成された水準を依然として大きく下回っている。

それにもかかわらず、同業界は再び国際舞台における主要プレーヤーとしての地位を証明した。生産・消費額では世界第5位、輸出額では世界第4位の座を維持している。

2026年の見通しとしては、国内市場の業績改善(「ハイパー減価償却」措置の利用可能性も寄与)に牽引され、緩やかな回復が予測されている。海外販売については、引き続き低調に推移する見込みである。

2025年の最終実績

UCIMU(イタリア工作機械・ロボット・自動化システム工業会)がまとめた最終データによると、2025年のイタリアにおける工作機械、ロボット、自動化システムの生産額は63億9,100万ユーロとなり、2024年比で1%増加した。

輸出は大幅に減少し、12%減の37億6,000万ユーロとなった。輸出比率は、2024年の67.5%から58.8%へと低下した。

2025年におけるイタリア製品の主な輸出先は以下の通りである：米国(5億7,200万ユーロ、9%減)、ドイツ(2億7,400万ユーロ、24.9%減)、フランス(2億400万ユーロ、0.2%増)、ポーランド(1億8,800万ユーロ、11.2%増)、トルコ(1億6,800万ユーロ、11.5%減)、インド(1億6,400万ユーロ、11.6%減)、メキシコ(1億5,800万ユーロ、10%減)、スペイン(1億4,700万ユーロ、6.5%減)、中国(1億1,000万ユーロ、54.1%減)、ブラジル(8,400万ユーロ、15.9%増)。

2年間の減少を経て、イタリアの製造業者による国内市場への出荷は再び増加に転じ、26億3,100万ユーロ(前年比28.1%増)に達した。この実績は、22.3%増の45億3,400万ユーロとなった国内消費に牽引された。

輸入額は19億300万ユーロとなり、2024年比で15.1%増加した。国内消費に占める海外製品の割合は3ポイント低下し、42%となった。設備稼働率の低下が報告され、その年間平均は2024年の77.3%から2025年には76.5%へと変化した。受注残についても同様の傾向が見られ、生産保証期間は2024年の6.5ヶ月分に対し、6.3ヶ月分となった。

同セクターの売上高は93億3,000万ユーロにとどまった。

2026 年の見通し

UCIMU（イタリア工作機械・ロボット・自動化システム工業会）の予測が示すように、2026年にはイタリアの工作機械・ロボット・自動化システム製造業界において緩やかな回復が見込まれる。すべての指標がプラス圏に回帰すると予想されるが、その伸びは依然として小幅なものにとどまる見通しである。

生産額は66億4,000万ユーロ（前年比3.9%増）に達する見込みである。輸出額は前年と同水準を維持し、37億8,500万ユーロ（同0.7%増）となる見通し。

国内市場向けの出荷に見られる好調な傾向は今後も続くであろう。出荷額は8.5%増加して28億5,500万ユーロに達すると予想される。これは、48億7,000万ユーロ（同7.4%増）が見込まれるイタリア国内の需要に牽引されるものである。

輸入額もプラスに転じ、20億1,500万ユーロ（同5.9%増）に達する見込み。

地政学的リスクとインセンティブの狭間にあるイタリア工作機械業界

UCIMUのリッカルド・ローザ会長は次のように指摘した。「全体として、2025年はイタリアの工作機械メーカーにとって期待外れの年となった。何よりもまず、海外売上の大幅な縮小に直面せざるを得なかったためである。一方で、回復傾向にはあったものの、国内市場向けの売上も決して満足のいくものではなかった。その要因の一つには、「トランジション5.0」に関する混乱もあった。

国際的な局面では、地政学的な不安定さが、UCIMUが代表する業界、特に海外市場向け製品を主とする業界にとって、事業運営を極めて困難なものにした。

関税「トランプ政権が導入した関税は、私たちが対処できる範囲で影響を及ぼした。これは数字にも表れている。2025年には、米国への売上は9%減少した。しかしながら、米国は依然として、この分野における「メイド・イン・イタリー」製品の最大の輸出市場である。これは様々な理由から可能となっている。まず第一に、米国は国内需要を満たすだけの国内生産能力がなく、高度でカスタマイズされた技術を必要としている。さらに、歴史的に見てこの時期、イタリアにとって戦略的に重要であり、関税が免除されている防衛産業は、非常に活発な需要を経験している。これら3つの要因により、イタリアの製造業者は米国市場で事業を継続することができ、米国市場は常にイタリア製品の特徴を高く評価してきた。

しかしながらこれは、重大な問題が解消されたことを意味するものではない。米国メーカーも製造している機械のカテゴリーにおいては、関税は明らかに大きな負担であり、当該セクターの売上を制限している。しかし、問題はそれだけではない。トランプ政権の貿易政策は、深刻な間接的影響も生み出している。例えば、関税への対応として他国が課した特定の原材料価格の上昇は、イタリアの事業にも影響を与えている。」

欧州と自動車産業「しかし、戦争の影響や欧州のような重要な主要市場の低迷への対応は、想像以上に複雑であることが判明した。戦争に関して、製造業者である私たちにとって最も明白な例は、ロシアが私たちのレーダーから消え去ったことである。2013年、クリミア侵攻と最初の制裁措置が始まる前は、ロシアは当会にとって4番目に大きな輸出市場であり、輸出額は1億7,700万ユーロであった。2022年には8番目の輸出先市場（9,900万ユーロ）にまで後退した。2023年以降、私たちはこの市場に全く進出しておらず、さらに中国のメーカーに市場を奪われた。欧州の中心にあるこの傷が癒えた後、失った市場シェアを少なくともいくらかでも取り戻せるのかどうか、私たちは疑問に思っている。」

「そして、欧州について言えば、私たちは脱工業化の危機に危険なほど近づいている。EU当局が自動車産業における電気自動車への移行に関して下した極めて疑わしい決定は、ますます具体的な影響を及ぼし始めている。若い世代にとって交通の概念が大きく変化し、車がもはやステータスシンボルではなく移動手段として捉えられるようになった今、欧州政府当局は統制主義的なアプローチによって、従来は我が国の製造業の領域であった分野にアジアのサプライヤーが進出することを事実上許してしまった。影響が取り返しのつかないものになる前に、欧州の代表者と政府当局に対し、そのアプローチを再考するよう求める。技術的中立性の原則に基づいたアプローチを採用し、自動車サプライチェーンとその関連産業が、環境を尊重しつつ、可能な限り業界で働く人々の雇用を守りながら、進行中の移行を効果的に管理できるようにすることを強く求める。」

「欧州の病人」と呼ばれるドイツは、自動車産業と密接に結びついているが、トンネルの先に光が見え始めているかもしれない。ドイツ工作機械工業会(VDW)がまとめた2026年第1四半期の工作機械受注指数は15.1%の上昇を示し、3年連続のマイナス成長に終止符を打った。メルツ首相が導入した経済再生策と防衛支援計画は、ドイツ国内の信頼回復に貢献している。ドイツ経済が軌道に乗れば、私たちは先頭車両としてそれに追随し、「メイド・イン・ジャーマニー」生産のサプライチェーンの中で、長距離輸送を通じて世界各地に製品を届ける事業を継続していく準備ができている。

ホルムズ海峡危機について：ホルムズ海峡をめぐる危機について：「合意の詳細な内容を精査し、物流が正常化するまでには時間を要すると認識しつつも、現時点では事業への影響は管理可能な範囲にある。また、中東情勢の緊張緩和は、当会にとって大きな利益をもたらすと確信している。直接的な事業面では、同地域はアジア向け輸出の約30%を占めており、大規模なインフラ開発計画に伴い金属成形技術への需要が高い地域であるため、『正常な状態』への回帰は事業の追い風となるであろう。間接的な面では、物流の回復により、ここ数ヶ月で急騰した供給コストが徐々に低下していくと見込んでいる。」

イタリア市場と支援策について：「海外需要が極めて低迷している現在のような重要な局面において、国内市場は当会にとってさらに重要性を増している。本格運用が開始された『Transition 5.0（トランジション 5.0）』計画の一環である『ハイパー減価償却（超加速償却）』措置は、イタリア国内における工作機械の新規需要を喚起・支援する上で、極めて有効な手段である。」

「2026年の滑り出しは非常に厳しいものであった。国内市場における受注は、2025年1～3月期と比較して29%も大幅に減少した。しかし、当時の市場心理としては、需要が『凍結』している状態であった。GSE（エネルギーサービス管理公社）の支援策申請プラットフォームが稼働し、『ハイパー減価償却』が実際に適用され始めた最初の月である今、イタリアの顧客の姿勢に変化が見られ始めている。これは、私たちが以前から抱いていた見解を裏付けるものである。つまり、イタリアには需要が存在するものの、

顧客は発注を確定させるための明確な指針を待っていたということである。現在、この支援策は順調に機能している。6月末にイタリア企業・メイド・イン・イタリー省(MIMIT)が主催した機械工学分野の円卓会議において、専用プラットフォームを通じて提出された資金配分申請の90%が工作機械への投資を対象としていることが明らかになった。これは喜ばしいことである。導入の遅れはあったものの、3年間にわたる利用しやすい施策を打ち出した同省の取り組みは評価に値する。イタリア企業はついに、製造業者と投資家の双方が中長期的な計画を立てることを可能にする産業政策上の手段を手にした。この施策の実施により、イタリア国内の需要が2021年から2022年に記録した高水準に回復し、それによってイタリアの産業界に必要な技術の高度化が確実に進むことを期待している。デジタル技術やAIが競争のルールを塗り替えつつあるグローバル市場において競争力を維持していくためには、絶え間ないイノベーションが不可欠だからである。

(UCIMU Press Release 2026年7月付)

◆欧州通商政策動向

鉄鋼セーフガード：新規則と合わせて各国の関税割当配分を定める実施規則が発効

EUの新鉄鋼セーフガードが7月1日に発効し、同日、EUの貿易相手国間における関税割当ての配分を定めた実施規則も発効した。新セーフガードで設定された1,830万トンのEUの年間輸入割当量の半分は、EUの鉄鋼輸入の80%を占めるFTA締結国に確保されており、残りの半分はすべての貿易相手国に割り当てられている。そのためFTA締結国は、新規則で想定されている平均47%の削減率よりも高いEU市場アクセスシェアを維持することになる。なお各国への割当を定める実施法は7月1日の発効に間に合うよう緊急手続きが取られたが、2026年末までに通常の委員会手続きに基づき加盟国委員会に再提出される。

(新セーフガード規則、実施規則)

デュアルユース：欧州委員会が報告書を公表

欧州委員会は、加盟国によるデュアルユース物品の輸出動向を評価した報告書を6月25日に公表した。報告書によると、加盟国が認可したデュアルユース物品の輸出額は776億ユーロに達し、これはEU域外への総貨物輸出額の3%を占める(輸出先は中国25%、米国21%、英国7%)。一方、最終用途に伴う安全保障上のリスクを理由に、加盟国が拒否した取引は487件となった。これと並行して、欧州委員会は予定通りデュアルユース規則の包括的な評価に着手した。7月前半には欧州委員会が公開協議を開始する予定である。

(欧州委員会ニュース 2026年6月25日付)

欧州化学物質庁(ECHA)基本規則：EU理事会と欧州議会が暫定合意

欧州委員会が2025年7月に提案したECHA基本規則案をめぐり、EU理事会と欧州議会は6月30日に暫定合意に達した。これにより、これまでREACH規則の下で規定されていたECHAのガバナンス、資金調達、組織構造に関する規定が新たな独立した法的枠組みとして構築されることとなる。今後、両機関による正式な採択を経て公布される。

(EU理事会リリース 2026年6月30日付)

ELV（廃車）規則：EU 理事会が暫定合意を承認し立法手続きが完了

EU理事会と欧州議会が2025年12月に暫定合意したELV規則をめぐり、欧州議会での承認(6月18日)に続き、EU理事会も6月29日に合意文書を正式に承認した。新規則は設計から使用済み後の処理に至るまで、自動車のライフサイクル全体にわたる循環型経済の要件を導入する。特に注目される規定としては、新車へのリサイクルプラスチック含有率の最低目標値が導入される(発効から6年以内に15%、10年以内に25%とし、最低20%は使用済み自動車からのクローズドループとする)。今後EU官報に掲載され発効し、2028年6月29日から適用が開始される。

(EU理事会リリース 2026年6月29日付)

強制労働禁止規則（FLPB）：欧州委員会が施行支援のためのポータルを開設

EUでは2024年に発効したFLPBが2027年12月14日から適用開始される。同規則は、強制労働製品のEU域内での流通・販売の他、域内からの輸出を禁止する。適用開始に先駆け欧州委員会は、同規則の適用支援を目的とした「強制労働単一ポータル」ページを開設した。同ページでは、6月26日に採択された新ガイドラインの他、中小企業向けの専用サポート、サプライチェーンのリスク特定・対処のためのリソース、および各国の執行当局の暫定リストなどが公開されている。

(FLPB単一ポータル)

EU 域外企業向けの持続可能性報告基準（NESRS）：EFRAG が草案を採択

JBCE・JMCブリュッセルおよびJEITA/JMTBA/JLMC欧州が入手した情報によれば、欧州財務報告諮問グループ(EFRAG)の持続可能性報告委員会は、EU域外企業向けの持続可能性報告基準(NESRS)の草案を採択した。同基準は、NESRSから「第三国グループ向けESRS(ESRS-TC)」へ名称が変更された。また草案では、報告範囲を決定するための2つの代替アプローチを導入している：(1)企業はグローバルグループ全体の影響について報告する、(2)気候関連の影響についてはグローバルに報告し、その他の持続可能性関連報告は、EU内で販売される製品／サービスに限定される(混合アプローチ)。特に後者の「混合アプローチ」を巡っては、草案の中で最も物議を醸した要素の一つとなっており、複数の委員がその法的根拠に疑問を呈したほか、EU関連の影響をグローバル事業から切り離すことは実務上困難になると警告した。なおEFRAGは、同草案をめぐり7月22日にウェビナーを開催した後、7月23日から公開協議と実地試験を開始する見込みである。

(ウェビナー)

EU 域外企業向けの持続可能性報告基準（NESRS）：EFRAG が草案を採択

- 欧州委員会は7月6日、CBAMの下での2026年Q2の炭素価格を発表した(75.28ユーロ)。これは、EU排出権取引制度(ETS)オークションでの炭素価格に基づき欧州委員会が四半期ごとに決定するもので、CBAM証明書の販売価格として使用される。

(欧州委員会ウェブサイト)

- 欧州委員会が2025年12月に提案したCBAMの対象拡大提案をめぐり、欧州議会で本件を担当する環境委員会(ENVI)は、7月6日に自身の修正案をまとめた報告書を採択した。ENVIは、「透明性のある定量的な方法論」に基づく下流製品のさらなる対象拡大を支持した。また、送電網事業者がネットワークの安定性を維持するために使用する、EU域外からの電力輸入については、適用除外とする規定を追加した。その他、悪用を防ぐため、回避防止ルールを強化している他、輸出市場におけるEU企業保護のための暫定的な脱炭素化基金の設立も支持し、支援対象の拡大を提案した。議会総会での採決は9月14日に予定されている。

(欧州議会(ENVI)リリース)

欧州委員会が 2026 年版の「REACH 制限ロードマップ」を公表

欧州委員会は、「REACH制限ロードマップ」の最新版を7月2日に公表した。有害化学物質を規制するための、現在進行中および計画中の措置の概要を示している。2022年以降欧州委員会が採択した規制(表1)、現在立法手続き中のもの(表2)、ECHA委員会の意見策定中のもの(表3)の他、将来的な制限の可能性のための作業が進行中の物質(附属書I)などをまとめている。なお、附属書Iには「水素化テルフェニルを除く高温熱媒体」と「発がん特性を有する臨界繊維形状の物質」が新たに追加された。

(CARACALページ、欧州委員会ニュース 2026年7月2日付)

欧州委員会が「サイバーセキュリティと AI 行動計画」を発表

欧州委員会は7月7日、「サイバーセキュリティとAI行動計画」を発表した。これは、高度なAIモデルを使用した新たなサイバー脅威に対処するための戦略を提示するもので、以下3つの柱に分けて取り組みを提案している：(1) EU域内における高度なAIモデルへの安全なアクセスを確保する(EUレベルでのAIモデル評価枠組みの構築など)、(2) EUのサイバーセキュリティとレジリエンスの強化(ENISAによるガイダンス・優良事例・アドバイスの提供など)、(3) EUにおけるAIを使用したサイバーセキュリティ能力の構築(AIファクトリーの利用促進など)。

(欧州委員会リリース 2026年7月7日付)

CBAM: 最近の動向

- 欧州委員会が2025年12月に提案したCBAMの対象拡大提案をめぐり、欧州議会で本件を担当する環境委員会(ENVI)は、7月6日に採択した報告書を公表した。ENVIは、「透明性のある定量的な方法論」に基づく下流製品のさらなる対象拡大を支持した他、例外的な状況下での一時的な適用除外を認めるセーフガード条項に関しては削除を提案している。またENVIは、国際炭素クレジットの認定に関する議論は時期尚早と考えている他、デフォルト排出量の適時公表の確保、消費前スクラップおよび濫用行為に関する規則の明確化、ならびに透明性の強化なども提案した。さらに次回のCBAM見直しでは間接排出量、追加の下流セクター、および化学物質、ポリマー、特定のスクラップ材料などの製品への段階的な対象拡大を検討するよう求めている。なお、同報告書の総会での採決は9月14日に予定されている。

(欧州議会(ENVI)報告書)

- 在ブリュッセルのシンクタンクのBruegelは、7月17日、CBAMの対象拡大に関する記事を公表した。Bruegelは、今後の交渉においてCBAMの気候政策としての本来の目的を維持し、保護主義的な産業政策に変質させないよう警告している。また、対象が拡大される下流製品の選定手法がカーボンリークのリスクを過大評価していると指摘し、製品価格に占める炭素価格の割合が十分に大きな製品に対象拡大を限定し、デフォルト値をEUの平均排出強度に基づいて設定するよう提言している。

(Bruegelリリース)

新廃車 (ELV) 規則が公布、9月1日から適用へ

車両の設計における循環性要件および使用済み車両の管理に関する規則(通称、ELV規則)が7月24日のEU官報に掲載された。20日後の8月13日に発効し、2026年9月1日から現行のELV指令を置き換える形で適用開始される。しかし、具体的な技術規則や報告義務、有害物質の適用除外、および型式認定に関する一部の規定については、より長い移行期間が設けられており、2029年～2032年に順次適用が開始される。なお新規規則は、自動車へのリサイクルプラスチック材の使用義務や拡大生産者責任、デジタルパスポート、輸出規制などを導入する。

(ELV規則)

欧州委員会が AI 法の透明性義務に関するガイダンスを公表

2026年8月2日にAI法が施行され、特定のAIシステムについては、ユーザーがAIとやり取りしている場合や、コンテンツがAIによって生成／改変された場合に、その旨をユーザーに通知することが義務付けられる(透明性義務)。これに先立ち欧州委員会は、7月20日に透明性義務に関するガイダンスを公開した。ガイダンスでは、概念の説明や特定の適用除外のほか、対象となるAIシステムの具体例などを提示している。

(欧州委員会リリース 2026年7月20日付)

◆米国通商政策動向：輸入業者が主要貿易相手国に対する新たな「通商法 301 条」関税を提訴

米国の小規模輸入業者2社が、トランプ政権による主要貿易相手国60カ国・地域を対象とした新たな関税措置を不服として提訴した。原告らは、政権が「強制労働の取り締まり」に関する懸念を口実に、かつて「国際緊急経済権限法(IEEPA)」に基づき導入されたものの、後に連邦最高裁判所によって無効とされた広範な関税の枠組みを事実上復活させたと主張している。

米国通商代表部(USTR)は、1974年通商法301条に基づき、10%から12.5%の関税を課した。この措置は7月24日に発効し、強制労働によって生産された製品の輸入禁止措置を制定していない、あるいは適切に執行していないとUSTRが判断した国や地域を対象としている。

本訴訟は、ニューヨークを拠点とするスパイス輸入業者「Burlap & Barrel」およびカリフォルニア州を拠点とする時計会社「Collective Horology」を代理して、「Liberty Justice Center」が米国国際貿易裁判所に提起したものである。Liberty Justice Centerは、政権による以前のIEEPAに基づく関税措置を不服とする訴訟においても、民間原告の代理人を務めていた。

主な法的論拠

原告らは、通商法301条が認めているのは、個々の国による特定の慣行に対処するための「対象を絞った救済措置」であり、米国の主要貿易相手国のほとんどからの輸入のほぼすべてを網羅するような、広範に適用される関税制度ではないと主張している。訴状によれば、同法は、無効とされたIEEPA措置の構造やそれによって生み出された歳入を再現することを主たる目的とした、世界規模の関税を課すための独立した権限を授与してはいない。

訴状では、主に2つの主張が展開されている。第一に、各国の強制労働関連法、法執行の実態、およびそれらが米国の通商に及ぼす影響について十分に詳細な事実認定を行わなかったことは、通商法301条に基づく権限の逸脱または不適切な行使にあたりと主張している。第二に、連邦行政法の下において、今回の最終的な措置は「恣意的かつ気まぐれ(arbitrary and capricious)」なものであったと主張している。原告らは、対象となる各経済圏の法制度、法執行の実績、および貿易構造は実質的に異なるものであるにもかかわらず、選定された関税率がそれらとどのように整合するのかについて、USTR（米国通商代表部）が十分な説明を行わなかったと主張している。また原告らは、一律の関税を課すことが…実質的に異なる国々に対する関税率を適用すれば、各国に帰属する特定の強制労働関連行為は排除されるだろう。

本訴訟は、強制労働が貿易執行の正当な対象であるか否かを裁判所が判断することを必ずしも求めているわけではない。

むしろ、USTRが以下の点について法的に十分な関連性を確立したか否かに焦点を当てている。

- 各国で特定された行為。
- その行為が米国通商に及ぼす影響。
- その国に割り当てられた関税率。
- 関税によって特定された行為が排除または修正される可能性。
- 事前決定された関税政策の申し立て

原告らは、強制労働調査は、国別の救済策を策定するためではなく、事前に決定された関税政策を支持するために構成されたと主張している。

彼らは、新たなセクション301措置と、以前のIEEPAおよびセクション122関税プログラムとの類似点を指摘している。これには、広範な輸入対象範囲、基準関税率、国別調整、供給途絶やその他の経済的影響を抑制することを目的とした製品除外などが含まれる。

訴状はまた、最高裁判所がIEEPA関税を無効とした判決後に政権高官が行った発言も引用している。特に、スコット・ベッセント財務長官が、セクション301の適用により、以前の枠組みの下で得られた関税収入とほぼ同水準を維持できると述べたことを指摘している。

原告らによれば、最終的なセクション301措置の時期、対象範囲、除外対象、および税率構造は、政権が無効となったグローバル関税制度を置き換える意図を持っていたことを示唆している。訴状では、対象となる経済圏が米国の輸入額の約99.4%を占めていることを指摘し、米国通商代表部(USTR)がこの広範な貿易対象範囲と調査対象の強制労働慣行との関連性を十分に考慮していないと主張している。

原告らはさらに、USTRが選択した狭い税率範囲は過去の関税制度の構造と酷似しているものの、対象国の強制労働法および執行慣行の違いを十分に反映していないと主張している。

USTR の行政手続きへの異議申し立て

訴状はまた、USTRのパブリックコメントおよび公聴会手続きの妥当性にも異議を唱えている。

対象となる60の経済圏すべての代表者は、3日間の公聴会でそれぞれの立場を表明することが求められていた。

原告らは、この簡略化された手続きでは、USTRが各管轄区域に関連する個別の事実、法律、経済、および救済措置に関する問題を十分に評価する機会が与えられなかったと主張している。

限定的な手続き、関係国の数、そして最終措置の広範さを考慮すると、通商代表部(USTR)が関税を正当化するために必要な国別の問題を実質的に検討しなかったことが示唆される。

この手続き上の主張は、審査裁判所がUSTRが関連証拠を検討したか、重要な意見に回答したか、結論を説明したか、そして行政記録と最終措置との間に合理的な関連性を確立したかを審査する可能性があるため、重要となる可能性がある。

輸入業者集団訴訟案

本件は、新たな通商法301条に基づく関税の対象となる、または今後対象となるすべての輸入業者を対象とした集団訴訟案として構成されている。原告は国際貿易裁判所に対し、これらの措置を無効とし、その執行を禁止し、政府に対し、集団訴訟の対象となる輸入業者から徴収した関税と、法的に認められる利息を返還するよう命じることを求めている。

このアプローチは、個々の企業または小規模な輸入業者グループが個別に訴訟を起こすのが一般的だった従来の関税訴訟とは異なる。これらの訴訟では、多くの場合、特定の原告に対する救済措置が限定され、他の輸入業者が個別に払い戻しを受ける権利があるかどうかについて不確実性が生じていた。

集団訴訟の認定は、関税の合法性と政府の払い戻し義務を解決するための単一のメカニズムを提供する可能性がある。しかし、裁判所はまず、当該訴訟が集団訴訟認定の適用要件を満たしているかどうかを判断しなければならない。

輸入業者集団訴訟案 本件は、新たな通商法301条に基づく関税の対象となる、または今後対象となるすべての輸入業者を対象とする集団訴訟案として構成されている。原告らは、国際貿易裁判所に対し、当該措置の無効化、執行の禁止、および原告らが対象とする集団から徴収した関税の返還と、法的に認められる利息の支払いを政府に命じるよう求めている。

このアプローチは、個々の企業または少数の輸入業者グループが個別に訴訟を提起する従来の関税訴訟とは異なる。従来の訴訟では、救済措置は特定の原告に限定されることが多く、他の輸入業者が個別に返還を受ける権利があるかどうかについて不確実性が生じていた。

集団訴訟が認定されれば、関税の合法性と政府の返還義務を解決するための単一のメカニズムが提供される可能性がある。しかし、裁判所はまず、本件が集団訴訟認定の要件を満たしているかどうかを判断する必要がある。裁判所が集団訴訟を認定するまでは、訴状は影響を受けるすべての輸入業者を自動的に保護するものではない。

要請された救済措置は、無効とされた国際緊急経済権限法(IEEPA)に基づく関税に関連する還付に関する国際貿易裁判所の取り扱いにも影響を与える可能性がある。同裁判所の審理において、政府は特定の輸入業者が関税の返還を受けるためには個別に訴訟を起こさなければならないと主張していると報じられている。通商法301条訴訟で輸入業者集団訴訟が成功すれば、同様に細分化された還付手続きとなる可能性は低くなるだろう。

より広範な政治的・商業的影響

民主党系の州当局者も通商法301条に基づく関税に異議を唱えると予想される。22州の司法長官からなる連合は、強制労働調査の正当性に異議を唱え、同訴訟の結果として課される関税に反対する意向を示す意見書を既に提出している。

この訴訟は、共通の外国行為を根拠として、通商法301条をどの程度まで適用して広範な複数国への関税を課することができるかを決定づける可能性がある。政権に対する不利な判決が出た場合、USTRはより詳細な国別調査を実施したり、特定された慣行と選択された救済措置とのより密接な関連性を立証したり、あるいは別の法的根拠に依拠したりする必要性が生じる可能性がある。

輸入業者にとって、訴訟が係争中である間、関税はコスト、価格設定、契約、サプライチェーンに即座に影響を及ぼす。裁判所が差止命令その他の救済措置を発令しない限り、影響を受ける企業は原則として関税の支払いを継続しなければならない。輸入業者は、輸入記録、税関書類、清算日、関税分類、原産国情報、および潜在的な還付請求を保護するために必要となる可能性のある支払証明を保管しておくべきである。

したがって、この訴訟は、通商法301条の法的範囲、および政権がその権限を根拠として、米国への主要な輸入品のほぼすべてに関税を課することができるかどうかの重要な試金石となる。この判決は、強制労働関連措置だけでなく、将来の米国関税制度の設計や、それらに異議を申し立てる輸入業者が利用できる救済措置にも影響を与える可能性がある。

(Global USA 2026年8月4日)

3. 工作機械関連企業動向

◆ Mikron、2026 年上半期の純売上高 1 億 8,050 万スイスフランを発表

2026 年上半期報告書

Mikron (SIX: MIKN) は、未監査の業績を発表した。今回の業績は、通期の業績予想の範囲内に収まる結果となった。2026年上半期の純売上高は1億8,050万スイスフランとなり、前年同期の1億9,190万スイスフランと比較して5.9%減少した。為替変動の影響を除いたベース(恒常為替レート)では、純売上高は3.5%の減少となった。営業利益は1,610万スイスフランとなり、前年同期の2,160万スイスフランを下回った。営業利益率は8.9%であった(2025年上半期：11.3%)。

受注高

Mikronグループの2026年上半期の受注高は1億3,450万スイスフランとなり、2025年上半期(2億2,070万スイスフラン)は下回ったものの、前年下半期(1億1,200万スイスフラン)と比較すると改善した。同グループは、この好ましい傾向が2026年下半期も続くの見込んでいる。

純売上高

2026年上半期の純売上高は1億8,050万スイスフランとなり、前年同期の1億9,190万スイスフランから5.9%減少した。恒常為替レートベースでは3.5%の減少であった。オートメーション(Automation)部門の純売上高は、極めて好調だった前年同期を8.0%下回った。特に欧州において厳しい市場環境が続いたマシニング(Machining)部門は、前年水準を13.4%下回った。対照的に、ツール(Tool)部門は全地域からの寄与により、12.6%という堅調な売上成長を達成した。

収益性

Mikronの営業利益は1,610万スイスフラン(売上高比8.9%)となり、前年同期の2,160万スイスフラン(同11.3%)を下回った。収益性の低下は、主にオートメーション部門における売上減少によるものである。2026年上半期の純利益は1,380万スイスフランとなり、前年同期の1,830万スイスフランから減少した。

グローバル展開

2026年上半期、Mikronはグローバル展開をさらに強化した。米国ではMikron Toolの新たな拠点が2026年第3四半期に稼働を開始する予定であり、インドではオートメーション部門およびマシニング部門のための新法人が設立された。これらの投資は、主要市場への近接性を高めるものであり、両地域における将来の売上拡大を支えるものと期待されている。

見通し

同グループは2026年度通期の業績予想を据え置き、売上高3億4,000万～3億8,000万スイスフラン、営業利益率7～10%を見込んでいる。

(単位：CHF million)

	2026年1-6月	2025年1-6月	前年同期比
Order intake ¹⁾	134.5	220.7	-39.1%
– Automation	77.6	168.8	-54.0%
– Machining	23.1	23.3	-0.9%
– Tool	34.0	28.9	17.6%
Net sales	180.5	191.9	-5.9%
– Automation	115.6	125.7	-8.0%
– Machining	32.1	37.1	-13.4%
– Tool	33.0	29.3	12.6%
Order backlog ^{1) 2)}	232.3	351.9	-34.0%
– Automation	175.9	274.0	-35.8%
– Machining	49.1	73.2	-32.9%
– Tool	7.4	4.9	51.0%
Operating profit	16.1	21.6	-25.5%
as % of net sales	8.9%	11.3%	-24.2%
Net profit	13.8	18.3	n.a.
Free cash flow ¹⁾	9.9	-7.2	5.3
Balance Sheet	30.6.2026	31.12.2025	-1.3%
Total assets	374.1	379.1	2.1%
Shareholders' equity	241.7	236.6	2.2% pts.
Equity ratio ¹⁾	64.6%	62.4%	5.3

(Mikron Press Release 2026年7月17日付)

◆ Kennametal、2026 年度および第 4 四半期

ケナメタル社(Kennametal Inc.、NYSE: KMT、以下「同社」)は、第4四半期および2026年度の業績を発表した。

社長兼CEOのサンジャイ・チョウベイ(Sanjay Chowbey)氏は次のように述べている。「当社のチームは、市場環境の改善に伴う販売量の増加と戦略的な成長への取り組みを反映し、2026年度に力強い業績を達成した。タングステンをめぐる前例のない状況下での果断な価格設定、販売量の拡大、そしてコスト改善の取り組みにより、今四半期は過去最高の調整後EPSを達成した。」

同氏はさらに次のように続けた。「今後の見通しとして、いくつかの最終市場で見られる販売量の傾向に手応えを感じており、こうした状況の改善と当社の戦略的取り組みが、2027年度を通じて売上成長を牽引し続けると予想している。航空宇宙・防衛、エネルギー、土木・建設といった最終市場での最近の受注獲得は、どのような市場環境下でもシェアを拡大できる当社のチームの能力を実証するものである。市場平均を上回る成長と継続的な改善への取り組みが、株主の皆様にも長期的な価値をもたらすと確信している。」

2026 年度第 4 四半期の主な業績動向

売上高は7億3,700万ドルとなり、前年同期の5億1,600万ドルから43%増加しました。この増加は、オーガニック売上高の42%増、為替の好影響(1%)、営業日数の好影響(1%)によるものであり、事業売却の影響(1%減)によって一部相殺された。

営業利益は3億300万ドル(売上高利益率41.1%)となり、前年同期の3,100万ドル(同6.1%)から大幅に改善しました。営業利益の増加は、主に以下の要因によるものです：原材料コストと比較した原材料関連価格設定のタイミングの好転(約2億5,200万ドルのプラス効果)、「金属切削」部門における原材料以外の価格設定および関税サーチャージ、販売・生産量の増加、ならびに前年比で約500万ドルの追加的な事業再編コスト削減効果。これらの要因は、人件費の増加、関税、および一般的なインフレによって一部相殺された。調整後営業利益は3億600万ドル(利益率41.5%)となり、前年同期の3,800万ドル(利益率7.4%)から増加した。

2026年度の主な動向

売上高は23億5,700万ドルとなり、前年の19億6,700万ドルから20%増加した。これは、オーガニックな売上成長(19%)および為替換算によるプラスの影響(2%)が、事業売却によるマイナスの影響(1%)を上回ったことによるものである。

営業利益は4億7,300万ドル(利益率20.1%)となり、前年の1億4,300万ドル(利益率7.3%)から増加しました。営業利益の増加は、主に以下の要因によるものです：原材料コストと比較した原材料関連価格設定のタイミングの好転(約3億1,600万ドルのプラス効果)、「金属切削」部門における原材料以外の価格設定および関税サーチャージ、販売・生産量の増加、ならびに前年比で約2,700万ドルの追加的な事業再編コスト削減効果。これらの要因は、人件費の増加、関税、一般的なインフレ、および「インフラストラクチャー」部門における保険受取金の減少によって一部相殺されました。調整後営業利益は4億8,400万ドル(利益率20.5%)となり、前年の1億5,800万ドル(利益率8.0%)から増加した。

2026年度の営業活動による純キャッシュ・フローはマイナス400万ドルとなり、前年のプラス2億800万ドルから減少した。この減少は、主に運転資本の変動によるものである。具体的には、タングステン価格の記録的な高騰に伴う在庫評価額の増加や、原材料の供給を確保するために特定のサプライヤーに対して行った前払いなどが要因となった。これらの運転資本の増加要因は、当期の純利益の増加によって一部相殺された。フリー・オペレーティング・キャッシュ・フロー(FOCF)は、前年度のプラス1億2,100万ドルに対し、マイナス7,900万ドルとなった。FOCFの減少は、主に前述の運転資本需要によるものだが、前年度と比較して当期純利益が増加したことや設備投資が減少したことによって、その影響は一部相殺された。

見通し

2027年度第1四半期および通期の見通しは以下の通りである。

四半期見通し：

売上高は7億4,500万ドル～7億7,500万ドルを見込んでいる。為替の影響は、2026年度第1四半期と比較して中立的(影響なし)と予想される。

調整後EPS(1株当たり利益)は2.50ドル～2.80ドルと予想される。

通期見通し：

売上高は33億3,000万ドル～34億5,000万ドルを見込んでいる。為替の影響は、2026年度と比較して中立的(影響なし)と予想される。

調整後EPSは4.15ドル～5.15ドルと予想される。

フリー・オペレーティング・キャッシュ・フローは、調整後当期純利益の約20%となる見込み。設備投資額は約8,500万ドルと予想される。

FINANCIAL HIGHLIGHTS
CONDENSED CONSOLIDATED STATEMENTS OF INCOME (UNAUDITED)

(単位：千ドル)

	Three Months Ended June 30,		Twelve Months Ended June 30,	
(in thousands, except per share amounts)	2026	2025	2026	2025
Sales	\$736,614	\$516,448	\$2,356,698	\$1,966,845
Cost of goods sold	303,055	370,783	1,386,742	1,368,775
Gross profit	433,559	145,665	969,956	598,070
Operating expense	125,616	105,860	478,993	430,835
Restructuring and other charges, net	2,677	4,278	8,909	11,813
Loss on divestiture	—	1,512	—	1,512
Amortization of intangibles	2,384	2,646	9,522	10,787
Operating income	302,882	31,369	472,532	143,123
Interest expense	10,023	6,225	28,561	24,930
Other income, net	(6,393)	(5,223)	(17,358)	(13,811)
Income before income taxes	299,252	30,367	461,329	132,004
Provision for income taxes	69,790	7,244	110,915	33,296
Net income	229,462	23,123	350,414	98,708
Less: Net income attributable to noncontrolling interests	2,485	1,531	8,025	5,583
Net income attributable to Kennametal	\$226,977	\$21,592	\$342,389	\$93,125
PER SHARE DATA ATTRIBUTABLE TO KENNAMETAL SHAREHOLDERS				
Basic earnings per share	\$2.98	\$0.28	\$4.49	\$1.21
Diluted earnings per share	\$2.91	\$0.28	\$4.42	\$1.20
Dividends per share	\$0.20	\$0.20	\$0.80	\$0.80
Basic weighted average shares outstanding	76,274	76,209	76,215	77,264
Diluted earnings per share	\$2.91	\$0.28	\$4.42	\$1.20
Diluted weighted average shares outstanding	77,929	76,934	77,424	77,894

(Kennametal Press Release 2026年8月5日)

◆ HERMLE、2026 年最初の 5 ヶ月間で事業拡大を達成

Maschinenfabrik Berthold HERMLE AG（以下、HERMLE）は、2026年最初の5ヶ月間において順調な事業推移を見せた。ドイツ南部に拠点を置く工作機械および自動化技術のスペシャリストである同社は、グループ全体の受注額を前年同期比22.6%増の2億3,690万ユーロ（前年同期：1億9,330万ユーロ）に伸ばした。HERMLEは米国市場において引き続き好調な事業の勢いを維持したほか、半導体、航空宇宙、防衛の各業界からの需要拡大を背景に、大型の個別プロジェクトの受注にも成功した。1月から5月末までの期間における海外からの新規受注額は、前年同期比25.4%増の1億7,610万ユーロ（前年同期：1億4,040万ユーロ）となった。国内事業については、14.9%増の6,080万ユーロ（前年同期：5,290万ユーロ）を記録した。2026年5月31日時点におけるグループ全体の受注残高は1億3,320万ユーロとなり、2025年の同日時点（1億1,340万ユーロ）および2025年末時点（9,060万ユーロ）を上回った。

2026年の最初の5ヶ月間において、グループの売上高は8.9%増の1億9,440万ユーロ（前年同期：1億7,860万ユーロ）となった。内訳は、国内売上高が19.0%増の5,650万ユーロ（前年同期：4,750万ユーロ）、海外売上高が5.2%増の1億3,790万ユーロ（前年同期：1億3,110万ユーロ）であった。売上高の増加とそれに伴う設備稼働率の向上により、人件費や減価償却費の増加といった収益を圧迫する要因を十分に相殺できた結果、営業利益も改善した。

これまでの好調な業績を受け、HERMLE（ヘルムレ）は2026年第3四半期において短時間勤務制度の運用を停止することができた。しかしながら、世界的な政治・経済情勢とそれに伴う高い不確実性を踏まえ、同社は通期の業績予想を据え置いている。年初の好調な滑り出しを考慮すると、予想レンジの上限に達する可能性も見えてきていますが、依然として重大な外部リスク要因が残っている。

2026年5月末時点でのHERMLEグループの従業員数は1,638名であった（前年：1,605名、2025年12月31日時点：1,639名）。

（Hermle News Release 2026年7月）

4. 展示会情報

◆ AMB 2026、全展示ホールを使用し 1,150 社の出展者と共に開催へ

メッセ・シュトゥットガルトは「AMBプレビュー」において、2026年開催のAMB（国際金属加工見本市）の概要と主要プログラムを発表した。AMBは2026年9月15日から19日まで、メッセ・シュトゥットガルトの展示会場で開催される。業界からの関心は依然として高く、現時点で約1,150社の出展が確定しており、全10ホールが満杯となっている。出展企業の約31%は海外からの参加で、計34カ国が参加する。充実した付帯プログラムでは、約50名の登壇者による107以上のイベントが予定されている。

2026 年の業界カレンダーにおいて確固たる地位を築く AMB

「見本市への出展を決めることは、決して小さなことではない。それは投資であり、多大な労力を要し、そして強いコミットメントを示すものである。企業がこうした決断を下すという事実は、AMBという展示会が明確に支持されている証である。AMBは40年以上にわたり、国際的な金属切削加工業界における主要なイベントの一つであり続けてきた。それには理由があります。この展示会こそが、業界関係者が集うべき場所だからである」と、メッセ・シュトゥットガルトの社長であるローランド・ブラインロート氏は述べている。12万平方メートルの展示面積を誇るAMBは、金属切削加工のプロセスチェーン全体を網羅している。

2026 年の新たなプログラムのハイライト

GAMBは今回初めて、重要性が高まっているトピックを扱うプラットフォームとして「Defence & Security Opportunities（防衛・安全保障分野の機会）」という企画を実施する。メッセ・シュトゥットガルトはVDMA（ドイツ機械工業連盟）と協力し、ある重要な課題に取り組むための枠組みを構築する。その課題とは、「金属切削加工業界は、防衛分野における製造プロセス（個々の部品から量産に至るまで）の規模拡大を、いかに迅速かつ確実に支援できるか」という点である。この企画では、防衛関連のOEM（相手先ブランド製造メーカー）やサプライヤーと、AMBの出展企業とを直接結びつける。企業は基調講演を通じて拡張性のある製造ソリューションについて解説し、その後、展示会場内の選定されたホールを巡るガイド付きツアーが行われる。「Defence & Security Opportunities」は、水曜日と金曜日（9月16日および18日）に、クローズドイベント（関係者限定）として開催される。定員に限りがあるため、事前登録が必要である。

新たな試みとして、BW_i（バーデン＝ヴュルテンベルク・インターナショナル）の協力による「International Gallery powered by BW_i」が展開される。ホール1前の東側エントランスには、インド（VDMA India）、イタリア（Italcam）、台湾（TMBAおよびTAMI）、スペイン（AFM）などの協会や団体を含む、10の国際的な協会が出展する。国別の「ハッピーアワー」では、国内外からの来場者がリラックスした雰囲気の中で、それぞれの市場について意見を交わしたり、交流を深めたりすることができる。BW_iも独自のプログラムを実施し、AMBの国際的な側面を強調する。BW_i主催のハッピーアワーは9月17日（木）の15:00から16:00に開催され、ビジネス拠点としてのバーデン＝ヴュルテンベルク州に関するプレゼンテーションも行われる。

2026年のプログラムにおけるもう一つの新企画が、金曜日の午後に開催される「AMB Night」である。このアフターワーク・イベントは、金属切削分野の最新の技術革新やトレンドを直接体験したいと考えている熟練技術者を主な対象としている。割引チケットで展示会への入場とそれに続く「AMB Night」への参加が可能となり、同イベントでは業界のコンテンツクリエイターとの交流会も予定されている。

◆金属切削業界全体に向けた AMB 2026 のプログラム

AMB 2026では、多様な視点やニーズに応えるべく特別に企画された、充実した付帯プログラムが用意されている。「Where metal comes alive（金属が息づく場所）」——これこそが、金属切削業界全体がその多様性を伴って集結するAMBで来場者が体験できることである。ホール1で開催される「VDMA テクノロジー・フォーラム」では、サーキュラーエコノミー（循環型経済）やコスト効率の高い製造といったトピックを含む、実践的かつ専門的なプレゼンテーションが行われる。AMBステージでは日ごとに異なるテーマが取り上げられる。火曜日は航空宇宙、金曜日はメンテナンスに焦点が当てられる。

9月16日(水)は「製造業におけるAI」がテーマとなり、12:00からVDMA（ドイツ機械工業連盟）によるソフトウェア・デジタル化関連のプログラムが始まる。14:00からは、WIN-Verlag主催のパネルディスカッション「生産現場におけるAI：誇大広告から価値創造へ(AI in Production: From Hype to Value Creation)」が開催される。ここでは、プロセス最適化、予知保全、AIを活用した品質管理、AIプロジェクトの費用対効果といったトピックについて、第一線の専門家たちが議論を交わします。パネルディスカッション終了後には、登壇者と直接対話できる機会も設けられている。

AMBの3つの主要テーマである「自動化」「人工知能(AI)」「サーキュラー・エコノミー(循環型経済)」は、プログラム全体を貫く共通の軸となっており、出展企業が提示するソリューションにも反映されている。

(メッセ・シュトゥットガルト 2026年7月)

◆MTA ベトナム（ベトナム製造技術展）レポート

ベトナムの製造業の勢いが新たな機会を創出

今年で22回目を迎えるMTAベトナム2026は、工作機械、精密工学、製造自動化、AIアプリケーションに焦点を当てている。今年は、ホーチミン市で14万平方フィートを超える展示スペースに約500社が出展し、その中にはAMT(米国製造技術協会)の会員企業少なくとも50社が含まれている。来場者数は2025年の1万3000人を超えた。

牧野フライス製作所のシニアマネージャーは、「来場者の多さに驚かされますか？日本や欧米の多くの工作機械展示会と異なるのは、ここに来ている人たちのほとんどが非常に若いことです。皆、先進的な製造技術について学ぶことに非常に意欲的です」と述べている。

牧野フライス製作所はベトナムで工作機械を製造していないが、パレット交換システムやワークハンドリングシステムを組み込んだ自動化セルの生産を開始している。ベトナムの製造業者は、単体の工作機械よりも統合型自動化ソリューションをますます求める傾向にあることは明らかである。

2026年上半年、ベトナムは347億ドルの登録外国直接投資を誘致し、これは2025年同期比で約61%の増加となった。これらの投資の約3分の2は製造業向けである。ベトナムの工作機械市場はタイに比べて規模は小さいものの、エレクトロニクス、半導体、自動車生産、精密工学、産業オートメーションへの投資が過去最高水準に達していることを背景に、需要は急速に拡大し続けている。

AMT会員にとっての課題の一つは、ベトナムには実質的に2つの異なる製造市場が存在することである。展示会来場者の約85%はベトナム南部からの来場者であった。ベトナム北部市場に関心のある企業は、今年10月に首都ハノイ国際空港近くに新設されたベトナム・エキスポポジション・センターで開催されるMTAハノイへの出展も検討すべきであろう。ホーチミン市の展示会の約40%の規模ではあるが、MTAハノイは全く異なる製造エコシステムへのアクセスを提供し、展示会は急速に成長すると予想される。

ベトナム北部：エレクトロニクス、自動車、そして「チャイナ+ワン」

ハノイ周辺の製造業地域は、ベトナムにおける輸出志向型製造業の主要拠点となっている。この地域の成長は、「チャイナ+ワン」戦略によって促進され、多くの中国メーカーが国境を越えたサプライヤーとの緊密な連携を維持しながら事業を展開している。また、この地域はサムスン、LG、フォックスコン、ラックスシェア、ゴアテック、そしてアップルのサプライチェーンを支える受託製造企業などを擁し、東南アジア最大級のエレクトロニクス製造拠点へと発展した。

さらに、この地域はベトナムの自動車・二輪車製造の中心地でもある。VinFastは内燃機関車と電気自動車の両方を生産し、トヨタとホンダは乗用車を製造しています。ホンダとヤマハを筆頭とする日本のメーカーは、確立されたサプライヤーネットワークを通じてベトナムの二輪車産業を支配している。

AMT会員にとって、この地域は精密機械加工、自動化、計測、ツーリング、金型製造において大きなビジネスチャンスを提供する。しかし、中国、韓国、日本のサプライヤーとの既存の関係が購買決定に影響を与えることが多いため、現地パートナーシップの構築と長期的な市場開拓が特に重要となる。

ベトナム南部：多様な先端製造業

ホーチミン市周辺の製造業地域は、ベトナムで最も多様な産業経済圏であり、AMT会員にとって最も幅広いビジネスチャンスを提供している。この地域は単一産業に偏ることなく、産業機械、精密工学、医療機器、プラスチック／金型製造、エレクトロニクス、その他関連産業など、幅広い分野の製造業者を支えている。

近年の投資は、半導体、産業オートメーション、ロボット工学、医療技術、精密工学にますます集中している。デンマークのレゴ社は最近、近隣のビンズオン省に10億ドルを投じた高度自動化製造施設を開設し、ベトナム南部が先端製造業にとってますます魅力的な地域となっていることを示している。

多くのAMT会員にとって、ベトナム南部は最も有望なビジネスチャンスとなる可能性がある。多様な産業基盤と、日本、ヨーロッパ、アメリカ、台湾の製造業者が混在するこの地域は、生産性と先端製造技術を重視している。インテル・プロダクツ・ベトナムは半導体組立・テスト事業に15億ドル以上を投資しており、ジャビル社も電子機器製造能力の拡大を続けている。サイゴンハイテクパーク(SHTP)は、この地域における最先端製造業の中心地となり、インテル、ジェイビル、日本電産、サムスン、ソニオンをはじめとする数多くの半導体・自動化関連企業が集積している。

再生可能エネルギーインフラは、新たな製造業の機会を生み出す可能性が高い。ベトナムの最新の電力開発計画では、17ギガワットの洋上風力発電を目標としている。

2035年までの風力発電容量の拡大に加え、送電インフラやエネルギー貯蔵設備への大規模な投資が予定されている。これらのプロジェクトには、鋼製構造物、精密機械加工部品、軸受、ギアボックスなどが大量に必要となる。

(AMT ONLINE 2026年7月27日)

5. その他

◆ユーザー産業情報

ティッセンクルップ、セメント向け CO₂ 回収実証設備が完成

独複合企業ティッセンクルップ(thyssenkrupp)は9日、子会社ティッセンクルップ・ポリジウス(thyssenkrupp Polysius)が開発を進めるセメント製造向けCO₂回収技術「ピュア・オキシフューエル(Pure Oxyfuel)」の実証設備が完成したと発表した。今後は運転データを蓄積し、商業化とスケールアップを進める。

セメント製造では、原料を焼成してクリンカーを製造する工程で大量のCO₂が発生する。今回の技術は燃焼用空気の代わりに純酸素を使用することで排ガス中のCO₂濃度を大幅に高め、CO₂を最大95%回収・貯留(CCS)できることが特徴だ。

実証設備は、ティッセンクルップ・ポリジウスが主導する共同プロジェクト「Catch4Climate」の一環として、ドイツ・メルゲルシュテッテンに建設された。投資額は約1億2,000万ユーロで、クリンカーを日量450t生産できる準工業規模の設備となる。

同社は今後、実証運転を通じて技術の最適化を進めるとともに、セメント産業以外のCO₂排出量が多い産業への展開も視野に入れる。セメント産業は世界のCO₂排出量の約7~8%を占めるとされ、排出削減が難しい分野の一つであることから、CCSを組み合わせた製造技術の実用化に注目が集まっている。

(プレスリリース 7月9日付)

<https://www.thyssenkrupp-materials-services.com/sustainability-report/en/beyond-green/co2e-reduced-steel>

トルコの YEO テクノロジー、コソボで 130MW 太陽光発電を受】

トルコに拠点を置く上場エネルギー企業YEOテクノロジーは、コソボのリンジャ・ソーラー(スイスのオルラティ・グループとホルディノヴァ・グループの関連会社)との間で、出力最大130メガワット(MW)の太陽光発電所建設に関するEPC(設計・調達・建設)契約を締結した。2027年の稼働開始を目指す。

同発電所は、コソボ初の再エネ入札で選定されたプロジェクトで、稼働すれば同国最大の再エネ発電所となる見通しである。入札での落札価格は1メガワット時当たり48.88ユーロで、契約期間30年、差金決済契約(CfD)期間15年の枠組みが採用された。この価格水準の低さは、コソボにおける太陽光発電のコスト競争力の高さを示している。

YEOはコソボのほか北マケドニア、セルビアでも事業基盤を拡大しており、バルカン地域における大型再エネ・送電インフラ事業のEPC事業者としての地位を強めている。同社の受注拡大は、トルコ系企業がEUに先駆けてバルカン諸国のインフラ市場に食い込みつつある実例であり、日本企業が同地域での事業機会を検討する上でも、競合構図として押さえておく価値がある。

(Balkan Green Energy New 7月8日付)

<https://balkangreenenergynews.com/yeo-technology-expands-in-balkans-with-130-mw-solar-project-in-kosovo/>

エアバスと MTU、水素燃料電池推進で合併設立へ

欧州航空機大手エアバス (Airbus) と独航空エンジン大手 MTU エアロ・エンジnz (MTU Aero Engines) は 7 日、航空機向け水素燃料電池推進システムを開発する合弁会社の設立を計画していると発表した。技術開発から設計、試験、認証までを一体的に手掛け、次世代航空機への実用化を目指す。

新会社は当局の承認と従業員代表との協議を経て、2027年初頭の事業開始を見込む。両社は、航空分野の脱炭素化を進めるとともに、次世代航空技術における欧州の技術的自立を強化する。

エアバスは民間航空機の開発、燃料電池システム、液体水素技術に関する知見を提供する。一方、MTU エアロ・エンジnz は燃料電池技術、推進システム設計、機体への統合、性能検証、認証、保守に関する技術を持ち寄る。

水素燃料電池は、水素を使って発電し、電動モーターで推進力を得る方式で、飛行時に二酸化炭素を排出しない点が特徴だ。今回の合弁計画は、水素航空機の実用化に向け、機体メーカーとエンジンメーカーが共同開発体制を構築する動きとして注目される。

(プレスリリース 7月7日付)

<https://www.airbus.com/en/newsroom/press-releases/2026-07-airbus-and-mtu-aero-engines-to-create-a-joint-venture-to-develop-a-fully-electric-hydrogen-fuel-cell>

中国 EVE Energy、BMW 向け電池工場にハンガリーで約 15 億ドル投資

中国電池大手 EVE Energy は、ハンガリー・デブレツェンに約 450,000 平方メートルの敷地で 30 GWh 規模、約 13 億ユーロ (約 15 億ドル) を投じる電池工場を建設する。BMW の新型 iX3 向けに、プレミアム欧州製 EV 向けに設計された 46 シリーズの大型円筒形セルを 2027 年から量産する計画で、地元で 1,000 人超の雇用創出を見込む。同工場は EVE Energy にとって欧州初の 46 シリーズセル量産拠点となる。

同社は今回の投資にあわせ、EU 電池規則への対応や欧州でのサービス網拡充も進めており、独ミュンヘンで開催された展示会「The Smarter E Europe 2026」で最新の据置型蓄電システム「Mr. Big Family」やリチウム・ナトリウムのデュアル技術プラットフォームも披露した。

デブレツェンには BMW の完成車工場が隣接しており、地理的な近接性を生かしたジャストインタイム型のサプライチェーン構築が今後さらに進む見通しである。ハンガリーには既に CATL・Samsung SDI・SK On などの大型投資が集中しており、EVE Energy の参入により同国の電池産業集積は一段と厚みを増すことになる。

(The EV Report / Fuel Cells Works 7月5日付)

<https://theevreport.com/eve-energy-hungary-battery-plant-eu-compliance>

ハンガリー、汚染問題受け EV 電池産業への規制強化を示唆

ハンガリーで電池工場の環境汚染問題が表面化したことを受け、同国政府が EV 電池産業に対する規制強化の可能性を示唆した。焦点となっているのは中国系サプライヤーの環境対応であり、排水処理や化学物質管理をめぐる監督体制の厳格化が今後の焦点になるとみられる。

ハンガリーは CATL (デブレツェン、投資額 73 億ユーロ)、EVE Energy、Samsung SDI (ゲド)、SK On (イヴァーンチャ) など内外の大手電池メーカーの投資が集中する欧州最大級の電池産業集積地となっており、2030 年までに欧州全体の電池生産能力の約 3 分の 1 を占める規模に達すると見込まれている。急速な産業拡大に伴う環境負荷への対応が、今後の投資誘致競争力を左右する要素になりつつある。

政府としては、中国からの巨額投資を呼び込みたい思惑と、環境・地域住民への配慮との間でバランスを取る必要に迫られており、規制の具体的な内容や運用次第では、既に進出している内外の電池・部材メーカーの事業計画にも影響が及ぶ可能性がある。

(Automotive New 7月1日付)

<https://www.autonews.com/ev/batteries/ane-hungary-china-battery-makers-pollution-clampdown-0702/>

オルレン、スロバキアで再生可能ディーゼル「HVO100」の販売開始

ポーランドの石油・エネルギー大手オルレン(ORLEN)は6月29日、再生可能ディーゼル燃料「HVO100」の販売をスロバキアで開始したと発表した。輸送部門の温室効果ガス排出削減を進める戦略の一環で、まずは首都ブラチスラバの「ORLEN」ブランドのサービスステーション1カ所で試験販売を実施し、市場ニーズや利用状況を検証した上で販売網を拡大する。

HVO100は植物油や廃食油を水素化処理して製造する再生可能ディーゼル燃料で、ライフサイクル全体で温室効果ガス排出量を大幅に削減できる。既存の給油インフラを利用できるほか、多くの最新ディーゼル乗用車・商用車で車両改造なしに使用できることが特徴だ。

オルレンはこれまでドイツ、オーストリア、チェコでHVO100を展開しており、今回のスロバキア進出により中東欧地域での供給網をさらに拡充する。欧州では輸送部門の脱炭素化に向け、電動化に加え、既存ディーゼル車のCO₂排出削減策としてHVOなど再生可能燃料の導入が広がっており、同社は低排出燃料事業の拡大を進める方針だ。

(プレスリリース 6月29日付)

<https://www.orken.pl/en/about-the-company/media/press-releases/current/2026/June-2026/ORLEN-launches-HVO100-sales-on-Slovak-market-with-pilot-in-Bratislava>

ポーランド・チェコ、EU「AI ギガファクトリー」誘致へ共同提案

EUが進める「AIギガファクトリー」構想は、加盟国・準加盟国に大規模AI計算基盤を整備する枠組みで、2025年6月の募集時点で16カ国から76件、総額2,300億ユーロ超の投資意向表明が寄せられるなど競争が激化している。当初2025年内に予定されていた正式公募は延期が続き、2026年7月に実施される見通しとなった。選定は年内に完了し、最初の施設は2028年の稼働を目指す。

この枠組みにポーランドとチェコは当初、リトアニアも交えた3カ国連合として名乗りを上げたが、欧州委員会の資金枠組み見直しを受けてエストニア・ラトビアが離脱。ポーランドとリトアニアが提案を継続し、2025年11月にはチェコも合流して現在の枠組みとなった。チェコのブレチェク産業相は、共同提案が中東欧における大規模AIスーパーコンピューター拠点への道を開くものと位置付けている。チェコ政府は2026年6月、共同提案を後押しするためCZK25億(約150億円)の国家保証を承認した。

単独提案ではドイツ・フランス・スペイン・オランダなど資本市場の厚みや産業コンソーシアムで勝る西欧勢に対抗しづらいとの判断から、両国は連携によって選定確率を高める戦略を取っている。7月に議長国を引き継ぐスロバキアも、AI・デジタル分野の協力をV4(ビシェグラード4カ国)の優先課題に掲げており、地域全体でAIインフラ誘致への機運が高まっている。

(Central European Times 7月6日付)

<https://centraleuropeantimes.com/chasing-gigafactories-cees-ai-infrastructure-bet/>

独ヘロフレッシュ、ワルシャワに AI・エンジニアリング拠点を開設

独ミールキット大手ヘロフレッシュ (HelloFresh) は、ワルシャワに新たな AI・エンジニアリング拠点を開設すると発表した。米マイクロソフトとアマゾンで技術拠点構築に携わった経験を持つアサフ・ローネン氏が拠点整備を統括し、年内に100人規模の即戦力人材を採用する計画である。同社はこれまで「フードテック」企業として事業を展開してきたが、今後は「テックフード」企業への転換を目指す方針を示した。ローネン氏は、家庭の食卓の在り方を根本から変えることを目標に掲げ、AIを活用した高度な技術基盤の構築を急ぐ考えを示している。

ワルシャワには近年、海外企業の IT・AI 拠点新設が相次いでいる。独シスコは研究開発拠点を約2億ズロチ(約75億円)規模で拡張し、米ハプティックも新オフィスを開設した。こうした動きの背景には、ポーランドの技術系人材の層の厚さと、西欧に比した人件費の優位性がある。

ポーランドは長らく欧州企業のコールセンターや IT サポート拠点として利用される「低コスト外注先」の性格が強かったが、近年は高度な研究開発・AI人材を集約する「拠点統合型」投資へと質的な転換が進んでいる。単純作業の外部委託ではなく、意思決定や技術開発の中核機能に移す動きが広がりつつある点は、日本企業が拠点戦略を検討する上でも参考になるだろう。

(Do IT in Poland 7月2日付)

<https://doitinpoland.com/hellofresh-chooses-warsaw-for-new-ai-and-engineering-hub/>

クアンタム・システムズ、12 億ドル調達 自律型防衛システムを増産

人工知能(AI)を活用した無人機システムを手がける独新興企業クアンタム・システムズ(Quantum Systems)は2日、シリーズDの資金調達ラウンドで12億ドルを調達したと発表した。調達資金をネットワーク型自律システムの生産能力増強やAI開発、サプライチェーンの強靱化に充てる。企業評価額は80億ドルとなり、2025年11月の前回調達時から2倍強に拡大した。

同社は、陸・海・空など複数領域で作戦を展開する多領域作戦(MDO)向け技術を強みとする。無人機やセンサーなどをネットワークで連携させる独自ソフトウェア「MOSAIC UXS」を開発しており、異なる領域から得た情報の統合や自律システムの運用を支援する。

今回の資金調達に合わせ、航空機大手エアバス(Airbus)の防衛・宇宙部門エアバス・ディフェンス・アンド・スペース(Airbus Defence and Space)との戦略協業も拡大する。両社は技術や製造能力を持ち寄り、欧州独自の防衛技術開発を加速する。

エアバス・ディフェンス・アンド・スペースのミヒャエル・シェルホルン最高経営責任者(CEO)は、現代の戦闘では意思決定の速度が重要だと指摘し、空中、地上、宇宙から得られる大量のデータを迅速に収集・処理・統合する必要があると述べた。

(ypog.law 7月3日付)

<https://www.ypog.law/en/press/ypog-advises-quantum-systems-on-series-d-financing-round>

インフィニオン、ドレスデン新工場が稼働 50 億ユーロ投資で欧州半導体供給を強化

独半導体大手インフィニオン(Infineon Technologies)は2日、ドイツ東部ドレスデンで新半導体工場の開所式を開催した。総投資額は50億ユーロと同社史上最大で、欧州連合(EU)の半導体供給網強化政策を支える中核プロジェクトの一つとなる。式典にはフリードリヒ・メルツ首相も出席し、欧州の技術的自立と重要サプライチェーンの強靱化に寄与するとの考えを示した。

新工場「Smart Power Fab」は2023年5月に着工し、当初予定より数カ月前倒しで稼働を開始した。300ミリウェハーを用いてアナログ・ミックスドシグナル半導体やパワー半導体を生産し、ドレスデン拠点全体の生産能力は従来の約2倍に拡大する。

同プロジェクトにはEU欧州委員会の承認を受け、ドイツ政府が約9億2,000万ユーロの補助金を交付した。新工場では約1,000人を新規雇用する予定である。

ヨッヘン・ハーネベック最高経営責任者(CEO)は、AIデータセンター、ソフトウェア・デファインド・ビークル(SDV)、再生可能エネルギー向け電力機器の需要拡大を挙げ、「極めて適切なタイミングで新工場を稼働できた」と述べた。インフィニオンは前身のシーメンス半導体部門時代の1994年からドレスデンで生産を続けており、今回の投資は欧州半導体製造基盤の強化に向けた重要な節目となる。

(tagesschau.de 7月2日付)

<https://www.tagesschau.de/wirtschaft/unternehmen/infineon-chipfabrik-dresden-100.html>

安川電機、スロベニアに物流・組立拠点 EMEA 向け供給体制を強化

安川電機は6月30日、スロベニア南部コチューヴィエに産業用ロボットの物流センターとロボットシステム組立工場を開設したと発表した。投資額は約3,200万ユーロで、欧州・中東・アフリカ(EMEA)地域向けの供給体制を強化する。

新施設は既存のロボット工場に隣接して建設された。物流センターはEMEA地域向け製品の配送拠点として機能し、2027年までにEMEA地域向け出荷の80%以上を処理する計画である。組立工場では顧客ニーズに応じたロボットシステムの組み立てを行い、納期短縮やサービス向上を図る。

安川電機は2018年にコチューヴィエでロボット工場の操業を開始しており、今回の投資により同拠点の総床面積は3万平方メートルを超えた。

欧州では自動化需要の拡大やサプライチェーンの地域分散が進んでいる。安川電機は物流・生産機能を一体化した拠点整備により、EMEA市場での供給能力と顧客対応力を一段と強化する方針だ。

(プレスリリース 6月30日付)

https://www.yaskawa.eu.com/header-meta/news-events/article/yaskawa-opens-new-robot-distribution-centre-and-system-production-in-kocevje_n23729

EIB、欧州の重要原材料採掘ポテンシャル活用へ提言 探査投資の大幅拡大を要請

欧州投資銀行(EIB)は23日、欧州における重要原材料(CRM)の採掘可能性を活用するための調査報告書を公表した。域内には未活用の資源ポテンシャルが大きく存在するものの、投資不足や規制上の課題、探査活動の遅れにより、その実現が阻まれていると指摘した。

報告書によると、EUの重要原材料法(Critical Raw Materials Act)が掲げる域内生産目標を達成するには、鉱物探査への投資を現在の年間約2億ユーロから、今後5年間で年間約20億ユーロへと、およそ10倍に引き上げる必要があるという。

EIBはまた、2024年時点でEUが世界の鉱物探査予算に占める割合はわずか3%にとどまり、カナダ(20%)やオーストラリア(16%)を大きく下回っていると指摘した。一方でフィンランドやスウェーデンなど、より活発な探査活動を実現している国の事例もあり、欧州域内でも改善の余地が大きいとした。

重要原材料は電池や半導体、再生可能エネルギー技術など、欧州の競争力ならびにグリーン・デジタル・防衛分野の目標達成に不可欠とされる。EIBは、投資拡大とあわせて規制の改善や探査活動の強化を通じ、供給リスクの低減を図るべきだと提言した。

(欧州投資銀行(EIB) 7月23日付)

<https://www.eib.org/en/press/all/2026-259-eib-study-points-to-ways-europe-can-unlock-its-critical-raw-materials-potential>

独 BASF など 4 社、廃タイヤ再生の「タイヤ・トゥ・タイヤ」循環型経済プロジェクトで連携

独化学大手BASF、伊タイヤ大手ピレリ(Pirelli)、独タイヤリサイクル企業ピルム(Pyrum)、ポーランドの化学メーカー、シントス(Synthos)の4社は22日、欧州において使用済みタイヤを新たなタイヤ原料へと再生する「タイヤ・トゥ・タイヤ」循環型経済プロジェクトを共同で推進していると発表した。廃タイヤ由来のリサイクル材料の活用拡大を目指す産業エコシステムの構築を進める。

同プロジェクトでは、ドイツ国内で回収された使用済みタイヤに加え、「ドライバー (Driver)」ブランドの小売店やモータースポーツ活動で発生した廃タイヤ、さらにピレリのブローベルク工場(ドイツ)で発生する規格外タイヤなどを原料として活用する。これらの廃タイヤを産業プロセスによって処理し、合成ゴムを含む二次原材料へと転換する。

生成される再生原料は、国際的な持続可能性認証制度「ISCC PLUS」の認証を取得しており、トレーサビリティを確保した形で新たなタイヤ製造工程に投入できる仕組みとなっている。

タイヤ産業では、天然ゴムや合成ゴムなど原材料の調達に伴う環境負荷の低減が課題となっており、使用済みタイヤを高付加価値な原料として再生する技術の確立は、資源循環と脱炭素化の両面で欧州の化学・タイヤ産業にとって重要な意味を持つ。異業種4社による連携は、川上から川下までを一体的につなぐサーキュラーエコノミーの実践例として注目される。

(BASF(プレスリリース) 7月22日付)

<https://www.basf.com/global/en/media/news-releases/2026/07/p-26-137>

EU 欧州委、電化推進行動計画を発表 ヒートポンプ普及を柱に 2030 年までに年間設置数を 400 万台へ

欧州委員会は、域内の脱炭素化を加速するため、電力への転換を軸とした包括的な施策パッケージ「電化推進行動計画(Electrification Action Plan)」を発表した。ヒートポンプの普及拡大を計画の中心的な柱に位置付けている。

計画では、ヒートポンプの年間設置台数を、2025年実績の240万台から2030年までに400万台へと引き上げる目標を掲げた。目標達成に向け、電力とガスの価格比の是正、電気料金がガス料金を上回らないようにする税制の見直し、需要側の柔軟性活用、産業分野の電化推進などを盛り込んだ。

欧州ヒートポンプ協会(EHPA)は、同計画が電化需要の喚起に的を絞った点を評価し、エネルギー課税や電力価格の是正、産業電化や排熱回収の後押しなど、同協会がかねて求めてきた施策が幅広く反映されたと歓迎する声明を発表した。

欧州はREPowerEUの枠組みの下でロシア産化石燃料依存からの脱却を進めており、建物・産業双方でのヒートポンプ導入拡大は、エネルギー安全保障と気候目標の両面で重要な技術動向として位置付けられている。

(European Heat Pump Association (EHPA) 7月20日ごろ(欧州委員会発表))

<https://ehpa.org/news-and-resources/press-releases/electrification-action-plan-has-heat-pumps-at-its-heart/>

仏アクサンス、フランス初の産業規模 SAF 生産設備計画を発表

フランスのエネルギー技術企業アクサンス(Axens)は16日、フランス初となる産業規模の持続可能な航空燃料(SAF)生産設備の建設計画「ERA(Ethanol to Refuel Aviation)」を発表した。先進バイオエタノール技術を活用したSAF生産に乗り出す。

新設備は年間5万トンのSAF生産能力を備える計画で、建設地は現在選定中。2030年の稼働開始を予定している。同社はこの計画により、低炭素モビリティへの転換を支える産業戦略を一段と強化する考えを示した。

ERAは、先進バイオエタノールの生産拠点整備を進める「NACRE」プロジェクト(フランス・ラックで建設許可取得済み)とも連携する位置付けで、再生可能燃料の新たな価値連鎖の構築を目指す取り組みの一環となる。

欧州では航空分野の脱炭素化に向け、SAFの導入拡大が急務となっている。国際航空運送協会(IATA)によると、2026年の世界のSAF生産量は約240万トンにとどまり、ジェット燃料消費全体に占める割合は0.8%にすぎない。生産能力の大幅な拡大が課題となる中、アクサンスの計画は仏国内における供給基盤強化の一步として注目される。

(BioEnergy Times 7月16日付)

<https://bioenergytimes.com/axens-launches-frances-first-industrial-scale-sustainable-aviation-fuel-saf-unit-based-on-advanced-bioethanol-using-jetanol-technology/>

OMV が EIB から 4 億 5,000 万ユーロ融資、欧州最大級のグリーン水素プラント建設へ

オーストリアの総合エネルギー大手OMV(オーエムブイ)は13日、欧州投資銀行(EIB)との間で4億5,000万ユーロ(約750億円)の融資契約を締結したと発表した。同社が建設を進める欧州最大級のグリーン水素製造プラントの資金に充てる。

新プラントはオーストリア・ブルック・アン・デア・ライタに立地し、出力140メガワット(MW)の電解槽を備える。稼働は2027年末を予定しており、稼働後は年間最大2万3,000トンのグリーン水素を生産する見通しである。総投資額は6億ユーロに上る。

生産されたグリーン水素は、OMVのシュヴェヒャート製油所に供給され、燃料や化学製品の製造工程で使用される化石燃料由来水素を置き換える。これにより、同製油所の脱炭素化が大きく前進する見通しだ。

OMVは、新プラントが域内でのグリーン水素の現地生産を可能にし、燃料・化学製品のサステナビリティ向上に寄与すると説明した。EUは再生可能水素の生産拡大を通じた産業の脱炭素化を主要政策目標に掲げており、今回の案件はその一翼を担う大型投資として注目される。

(ESG Today 7月13日付)

<https://www.esgtoday.com/omv-secures-e450-million-eib-backing-to-build-one-of-europes-largest-green-hydrogen-projects/>

独フラウンホーファー研究機構、次世代電池セル研究拠点「FFB」が上棟式

ドイツのフラウンホーファー研究機構(Fraunhofer-Gesellschaft)は13日、電池セルの研究開発拠点「フォルシュングスフェルティグング・バッテリーツェレ(Forschungsfertigung Batteriezelle, FFB)」の新施設「FFBプレファブ(FFB PreFab)」で上棟式を開催したと発表した。本格的な建設工事が始まったことを示すもので、電池産業の技術基盤強化に向けた重要な節目となる。

新施設は約3万9,000平方メートルの敷地に建設され、ギガワット級の生産規模に対応できる電池セル研究インフラとして欧州で唯一の存在になるという。すでに140人超の研究者が参加し、電池セルの産業志向型量産技術の開発を進めている。

FFBは、研究成果を実際の量産プロセスへと橋渡しすることを目的としており、欧州が電池分野で技術的自立を確保する上での重要な役割を担う。欧州はEV需要の拡大に伴い電池セルの安定供給網構築を急いでおり、フラウンホーファーによる研究基盤の整備は、川上工程の技術力強化を通じて産業競争力を下支えするものとして期待される。

(フラウンホーファー研究機構(Fraunhofer-Gesellschaft)ウェブサイト 7月13日付)

<https://www.fraunhofer.de/en.html>

カテナ X、欧州・中国間で自動車業界データ連携網を始動

自動車業界向けデータエコシステムを運営するカテナX・オートモーティブ・ネットワーク(Catena-X Automotive Network e.V.)は22日、中国汽車工業協会(CAAM)および中国自動車工業協会欧州事務局(VDA China)と提携し、欧州と中国を結ぶ、業界初となる国境を越えた自動車データエコシステムを立ち上げたと発表した。

新たなエコシステムは、カテナXの中国側運用パートナーとなる「中聯(Zhonglian)」が中国国内から運用を担う。同社はカテナXにとって欧州域外初の運用パートナーとなる。運用開始は2026年11月中旬を予定している。

今回の連携は、EU電池規則への対応を出発点とするもので、2027年2月から義務化される電池パスポート制度に向け、検証可能でエンドツーエンドのサプライチェーンデータが求められることが背景にある。カテナXのオリバー・ガンザー(Oliver Ganser)会長は、国際的な自動車サプライチェーンにおける信頼性の高いデータ連携の重要性が増していると指摘した。

世界の自動車大手上位10社のうち8社がすでにカテナXに参加しており、規制対応の高度化とサプライチェーンの国際化が同時に進む中、欧中間のデータ連携基盤整備は今後のサプライチェーン管理のあり方に影響を与える可能性がある。

(Catena-X Automotive Network 7月22日付)

<https://catena-x.net/news/catena-x-launches-worlds-first-cross-border-automotive-industry-data-ecosystem-between-china-and-europe/>

米マイクロソフトと仏ミストラル AI、欧州向け AI 基盤で数十億ドル規模の提携拡大

米マイクロソフト(Microsoft)とフランスの人工知能(AI)新興企業ミストラルAI(Mistral AI)は21日、両社の戦略的提携を拡大すると発表した。欧州域内のAI計算基盤の増強を目的とした、数十億ドル規模の合意となる。

今回の提携により、米エヌビディア(NVIDIA)の次世代グラフィックス・プロセッシング・ユニット(GPU)「ヴェラ・ルービン(Vera Rubin)」を欧州域内のデータセンターに直接導入する計画である。マイクロソフトのブラッド・スミス(Brad Smith)副会長兼社長は、欧州の企業がデータや業務、重要なワークロードへの管理権限を手放すことなく世界最高水準のAIを利用できるようにすることが今回の提携の狙いだと説明した。

具体的には、ミストラルAIの最新モデル「ミストラル・ミディアム3.5」および文字認識技術「OCR4」がマイクロソフトのAI開発基盤「マイクロソフト・ファウンドリー」で利用可能になるほか、金融・製造・医療など規制の厳しい業種向けにアジュール(Azure)上でミストラル系AIアプリを稼働できるようになる。

欧州では、データ主権を重視する「ソブリンAI」への関心が高まっており、今回の提携はその流れを象徴する動きとして注目される。

(PYMNTS.com 7月21日付)

<https://www.pymnts.com/news/artificial-intelligence/2026/microsoft-and-mistral-expand-ai-push-across-europe/>

EU、デジタルプロダクトパスポート登録システムが稼働開始

欧州委員会は20日、デジタルプロダクトパスポート(DPP)の登録システム「レジストリー」とテスト環境の稼働を開始したと発表した。EU域内で流通する製品のサステナビリティ情報を透明化する取り組みが、実務段階へと大きく前進した。

DPPは、エコデザイン規則(Ecodesign for Sustainable Products Regulation、ESPR)に基づき導入される仕組みで、製品や部材、原材料に関する安全性、原産地、素材構成、修理可能性、環境性能、再利用・リサイクル情報などをデジタル形式で管理する「製品の身分証明書」と位置付けられる。

レジストリー自体は各製品固有の識別子と関連情報への参照先のみを保存し、詳細な製品データは事業者側またはDPPサービス提供者側の分散型システムで管理される仕組みとなっている。

対象製品ごとの義務化時期は今後の委任法により順次定められ、最初の適用対象となる電池については2027年2月からDPPが義務化される予定である。企業はサプライヤーデータの整備に12~18カ月を要するとされることから、早期の準備が求められている。

(欧州委員会(European Commission) 7月20日付)

https://single-market-economy.ec.europa.eu/news/digital-product-passport-registry-now-live-2026-07-20_en

独、重要インフラ保護法に基づく事業者登録義務が始動

ドイツで、重要インフラ事業者の保護を目的とする「KRITIS包括法(KRITIS-Dach-Gesetz)」に基づき、対象事業者の登録義務が17日に発効した。同法はEUのサイバーセキュリティ指令「NIS2」のドイツ国内における法制化の一環として、2026年3月に施行されていた。

KRITIS包括法は、エネルギー・交通・医療・デジタルインフラなど社会の基盤を担う重要インフラ事業者に対し、物理的・サイバー両面のレジリエンス強化を義務付けるもの。今回発効した登録義務により、対象となる事業者は当局への届け出を通じて監督体制に組み込まれることになる。

EUではNIS2指令のほか、重要インフラのレジリエンスに関するCER指令、デジタル製品を対象とするサイバーレジリエンス法(Cyber Resilience Act)、金融分野向けのDORAなど、複数の規制が重層的に整備されつつある。企業は事業内容に応じてどの規制が適用されるかを見極め、それぞれの施行スケジュールに沿った対応を進める必要に迫られている。

ドイツの今回の対応は、他のEU加盟国における同種の国内法制化の先行事例として注目される。

(Reed Smith(法律事務所)分析 7月17日付)

<https://www.reedsmith.com/our-insights/blogs/viewpoints/102mnj2/eu-cybersecurity-regulatory-update-for-2026-and-beyond/>

フィンランドのハイペリオン・ロボティクス、740 万ドル調達 ロボット式コンクリート製造で欧州展開加速

フィンランドのロボット建設技術企業ハイペリオン・ロボティクス(Hyperion Robotics)は16日、成長資金として740万ドルを調達したと発表した。インフラ建設向けのロボット製造技術を手掛ける同社は、今回の資金を活用し、欧州各地でロボット式の小型製造拠点「マイクロファクトリー」の展開を加速する。

調達資金は、英国スカンソープ近郊フリックスボローに開設する初の英国拠点「Forge I」の立ち上げに充てられる。同拠点は、鉱業大手LKABとの提携により整備される計画である。

ハイペリオン・ロボティクスのフェルナンド・デ・ロス・リオス(Fernando De los Rios)最高経営責任者(CEO)は、労働力不足や予算制約、脱炭素化目標が重なる中、欧州のインフラ更新は従来型の建設手法では対応しきれないと指摘し、工事現場に隣接する形でマイクロファクトリーを整備することで供給体制の拡大を図る考えを示した。

同社はすでに高効率なコンクリート構造物の製造技術を確立しており、ロボットによる自動化製造技術は、建設分野における生産性向上と省人化、CO₂排出削減を同時に実現する手法として注目されている。

(Tech.eu 7月16日付)

<https://tech.eu/2026/07/16/hyperion-robotics-secures-74m-to-expand-robotic-construction/>

独ドイツテレコム、米オープン AI との提携が量産段階に移行

独通信大手ドイツテレコム(Deutsche Telekom)と米オープンAI (OpenAI)の人工知能(AI)分野における協業が、試験運用段階から本格的な量産・実用段階へと移行したことが14日までに明らかになった。業界専門誌の報道によると、両社の提携はパイロットプロジェクトから本格運用へと移行し、商用サービスへの実装が進んでいるという。

ドイツテレコムは今年に入り、米エヌビディア(NVIDIA)や独シーメンス(Siemens)などと共同で、ミュンヘンに産業向けAIクラウド拠点を稼働させるなど、AIインフラへの投資を積極化してきた。同拠点は最大1万基規模のエヌビディア製GPU「ブラックウェル(Blackwell)」を備え、欧州企業向けに主権を確保した形でAI計算資源を提供する狙いがある。

オープンAIとの提携深化は、こうした自社のAIインフラ戦略と組み合わせることで、ドイツテレコムが欧州における「ソブリンAI」戦略を具体化する動きの一環として位置付けられる。

通信大手が生成AIサービスの実装を加速する動きは欧州各国で広がっており、通信インフラとAI計算基盤を組み合わせた事業モデルの構築が、今後の競争力を左右する要素になりつつある。

(ad-hoc-news.de 7月14日付)

<https://www.ad-hoc-news.de/boerse/news/ueberblick/deutsche-telekom-share-buyback-accelerates-as-ai-collaboration-moves-to/69811524>

インテル、アイルランド工場に 50 億ユーロ追加投資 AI 向け先端半導体を増産

米半導体大手インテル(Intel)は13日、アイルランド・レイクスリップの拠点に50億ユーロ(約57億ドル)を追加投資すると発表した。同拠点における生産能力拡張の次段階と位置付けられる。

今回の投資は、人工知能(AI)や高性能コンピューティング(HPC)向けの先端半導体需要の拡大に対応するもので、既存のクリーンルーム施設を活用しながら生産設備を増強する。インテルはこの投資により、次世代「インテル・ジーオン6」および同社のインテル3ノードを用いた次世代ジーオンプロセッサの生産量を拡大する計画である。

同社は、今回の投資が生産能力の拡張に加え、研究開発活動の推進にもつながるとし、欧州における半導体供給網の強化と業界需要への対応を進めるとの考えを示した。

EUはチップス法(Chips Act)を通じ、2030年までに世界の半導体生産に占める域内シェアを現在の約10%から20%に引き上げる目標を掲げている。インテルの今回の投資は、AI需要の急拡大を背景に加速する欧州の半導体投資の流れを象徴する動きといえる。

(Intel Newsroom 7月13日付)

<https://newsroom.intel.com/intel-foundry/intel-invests-5-billion-euro-to-expand-manufacturing-in-europe>

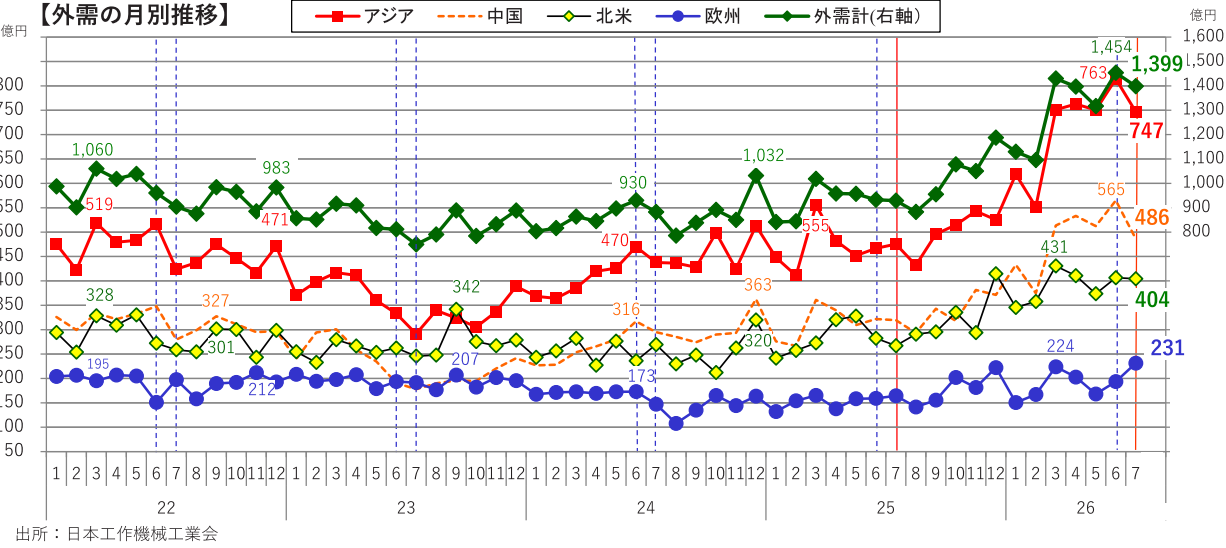
6. 日工会外需状況（7月）

外需【7月分】

1,398.5億円（前月比 △3.8% 前年比 + 50.5%）

外需額

- ・前月比は2カ月ぶり減少も、前年比では22カ月連続の増加、統計開始以降、3番目に高い受注額
- ・外需は、不透明な国際情勢の中、欧米の投資喚起政策の効果と、アジアでの投資が持続し、高い水準が続いている



外需【7月分】

主要3極別受注

①アジア

アジア計は、5カ月連続 700億超え

- 東アジアは、9カ月連続400億円超え、550億円超えは5カ月連続
- 中国は、5カ月ぶりの500億円割れも 9 カ月連続350億円超えと高い水準で推移
- その他アジアは15カ月連続の100億円超え、統計開始後3番目に高い受注額
- インドは2カ月ぶりに90億円割れ

②欧州

欧州計は、3カ月ぶりの200億円超え

- ドイツは、3カ月ぶりの40億円超え、45億円超えは32カ月(2023年11月期) ぶり
- イタリアは、2カ月ぶりの30億円超え

③北米

北米計は、2カ月連続400億円超え

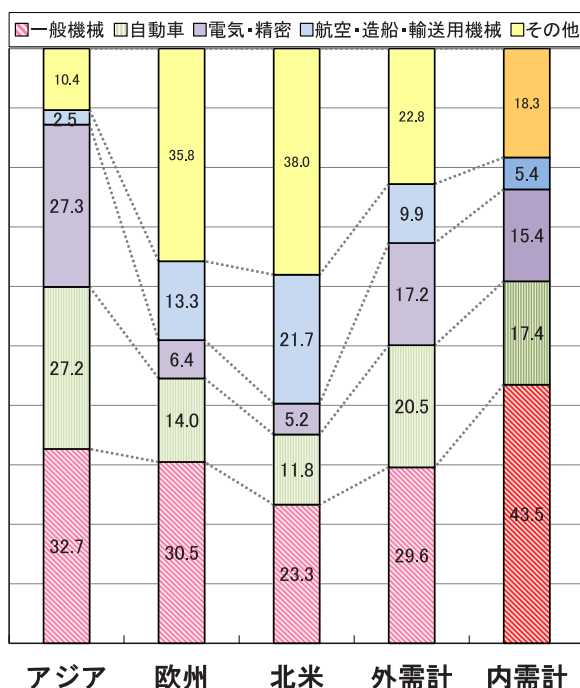
- アメリカは、2カ月連続の350億円超え、統計開始後2番目に高い水準
- メキシコは、2カ月連続20億円割れ

国・地域	受注額 (億円)	前月比 (%)	前年比 (%)
アジア	746.8	△8.3 2カ月ぶり減少	+57.1 11カ月連続増加
東アジア	576.8	△9.1 2カ月ぶり減少	+63.2 11カ月連続増加
韓国	50.0	+49.4 2カ月連続増加	+171.8 2カ月連続増加
中国	486.3	△13.9 2カ月ぶり減少	+52.2 28カ月連続増加
その他アジア	170.1	△5.5 3カ月ぶり減少	+39.4 6カ月連続増加
インド	72.8	△20.4 2カ月ぶり減少	+19.2 6カ月連続増加
欧州	231.3	+19.5 2カ月連続増加	+40.7 13カ月連続増加
ドイツ	46.8	+43.6 2カ月連続増加	+36.2 3カ月ぶり増加
イタリア	32.1	+31.6 2カ月ぶり増加	+25.6 2カ月連続増加
北米	404.4	△0.5 2カ月ぶり減少	+51.4 12カ月連続増加
アメリカ	371.1	+3.1 2カ月連続増加	+56.0 18カ月連続増加
メキシコ	15.5	△20.7 2カ月連続減少	△14.2 2カ月連続減少

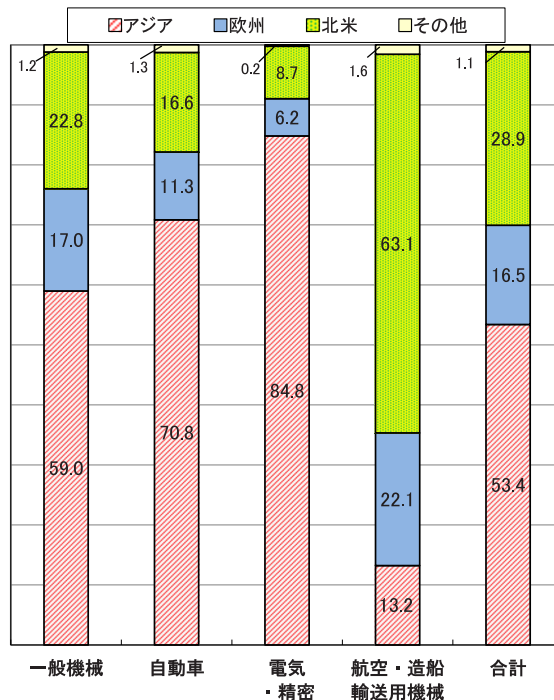
出所：日本工作機械工業会

外需【7月分】

主要3極別・業種別受注構成



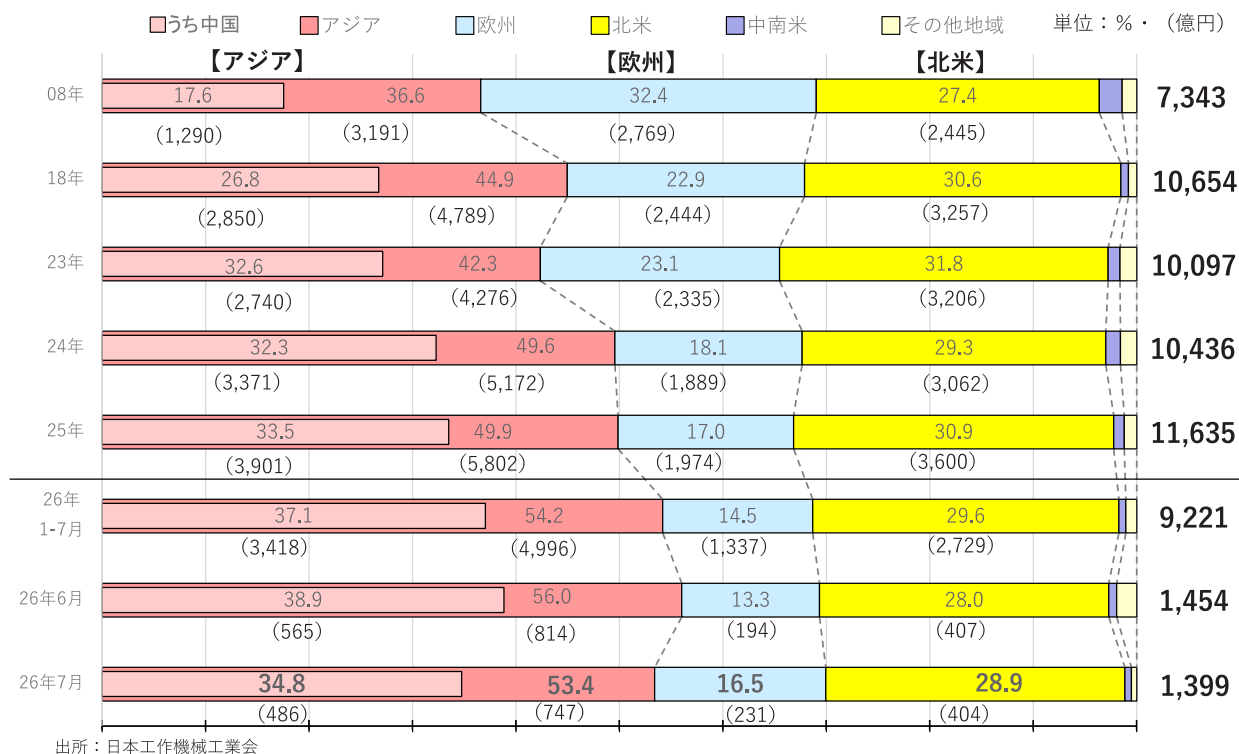
出所：日本工作機械工業会



出所：日本工作機械工業会

外需 地域別構成の推移

4カ月連続で北米比率が30割を下回る状況



出所：日本工作機械工業会